■ 困ったときは（サポートのご案内）

ホームページで調べる

レンズ交換式デジタルカメラ取扱説明書および付属ソフトウェアの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカード、アクセサリー互換情報など）は下記のホームページから

『α』専用サポートサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

『α』オフィシャルサイト
http://www.sony.jp/ichigan-a/

レンズ交換式デジタルカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。(English manual download service is available.)

付属ソフトウェアのサポート情報
http://www.sony.co.jp/support-disoft/

電話で問い合わせる（ソニーの相談窓口）

●使い方相談窓口
フリーダイヤル……0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話……0466-31-2511
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「402」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間：月～金 9:00 ～ 18:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00

●修理相談窓口
フリーダイヤル……0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話……0466-31-2531
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「402」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間：月～金 9:00 ～ 20:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00
ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/
FAX（共通）：0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　http://www.sony.co.jp/

この説明書は、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

4187045030

α33 α55

SONY

4-187-045-**03** (1)

レンズ交換式デジタルカメラ

α33 α55

取扱説明書

Aマウント

⚠警告　**電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

α

SLT-A33/SLT-A55V

⚠警告 安全のために

→ *197～200ページも
あわせてお読みください。*

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

**変な音・
においがしたら
煙が出たら**

➡ **❶ 電源を切る**
❷ 電池をはずす
❸ ソニーの相談窓口に連絡する

裏表紙に**ソニーの相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。

❷ 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。

❸ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。

❹ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

目次

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

撮影方法について

- 本機は液晶モニターを使用して撮影する液晶モニターモードと、ファインダーを使用して撮影するファインダーモードの2通りの撮影方法が可能です。
- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

本機搭載の機能について

- 本機は1080 60i対応機です。
- 本機で撮影した3D画像を3D対応モニターでご覧になる場合、眼の疲労、疲れ、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。3D画像を視聴するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人差がありますので、ご自身で判断してください。不快な症状が出たときは、回復するまで3D画像の視聴をやめ、必要に応じて医師にご相談ください。本機に接続する機器やソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。なお、お子様の(特に6歳未満の幼児)の視覚は発達段階にあります。お子様が3D画像を鑑賞する前に、小児科や眼科などの医師にご相談ください。大人のかたは、お子様に上記を守らせるように監督してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー(バックアップ)をおとりください。

液晶モニター、および液晶ファインダー、レンズ、イメージセンサーについてのご注意

- 液晶モニターや液晶ファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- ファインダー内で視線を動かした場合などに赤、緑、青のちらつきが見えることがありますが、故障ではありません。
  また、メモリーカードに記録されることはありません。
- 液晶モニターを持って本機を持ち運ばないでください。
- 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください。カメラの内部が故障することがあります。また、太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。
- 液晶モニターの裏や回転軸付近には、磁石が設置されています。フロッピーディスクやクレジットカードなど磁気の影響を受ける物をはさまないでください。

- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。

長時間撮影についてのご注意

- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇します。一定以上の温度になると、[!] マークが表示され自動的に本機の電源が切れます。電源が切れた場合は、本機の温度を充分下げるために、10分以上そのまま放置してください。
- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機の表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

他機での動画再生に際してのご注意

- 本機は、AVCHD方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。
  - High Profileに対応していない他のAVCHD規格対応機器
  - AVCHD規格非対応の機器

  また、本機は、MP4方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。
- ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。
  DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質（HD）のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。

GPS機能について（SLT-A55Vのみ）

- GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。
- 位置情報を記録しない場合は[GPS機能]を[切]にしてください（134ページ）。
- 飛行機の中では機内の案内に従って、本機の電源をお切りください。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中の画像について

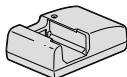
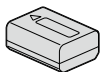
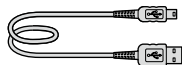
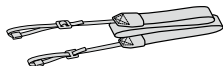
画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（25℃）、CHARGEランプ消灯後、約1時間充電したバッテリー使用時のものです。

付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内は個数

- バッテリーチャージャー BC-VW1 (1)

- リチャージャブルバッテリーパックNP-FW50 (1)

- USBケーブル(1)

- ショルダーストラップ(1)

- ボディキャップ(1)(本機に装着)

- アイカップ(1)(本機に装着)
- CD-ROM (αアプリケーションソフトウェア)(1)
- 撮りかたガイド(1)
- 取扱説明書(本書)(1)
- 保証書(1)

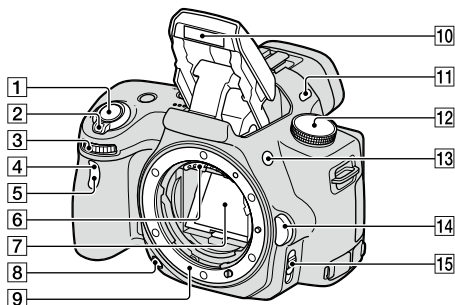
レンズとアクセサリーについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するように設計されたソニー製レンズ/アクセサリー *のご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

* コニカミノルタ製を含みます。

各部のなまえ

( )の数字は、参照ページです。

本体前面

1 シャッターボタン(56)
2 電源スイッチ(24)
3 コントロールダイヤル(69)
4 リモコン受光部
5 セルフタイマーランプ(114)
6 レンズ信号接点*
7 ミラー *
8 プレビューボタン(70)
9 マウント
10 内蔵フラッシュ *（91）
11 マイク**
12 モードダイヤル(56 ～ 76)
13 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタン(91)
14 レンズ取りはずしボタン（23）
15 フォーカスモードスイッチ（81、86）

***の付いたところは、直接手で触れないでください。**
****動画撮影時は手でふさがないようにしてください。**

本体後面

1 マイク**

2 オートロックアクセサリーシュー（94）

3 MENU（メニュー）ボタン（45）

4 ファインダー *（35）

5 アイセンサー（35）

6 視度調整ダイヤル（25）

7 液晶モニター（38、117、123）

8 明るさセンサー（152）

9 ▶（再生）ボタン（117）

10 アクセスランプ（18）

11 撮影時：ピント拡大ボタン（87、149）
再生時：🗑（削除）ボタン（128）

12 MOVIE（動画）ボタン（77）

13 FINDER（ファインダー）/LCD切り換えボタン（35、153）

14 スピーカー

15 ⊖ イメージセンサー位置表示（83）

16 D-RANGE（レンジ）ボタン（102）

17 撮影時：AEL（AEロック）ボタン（74、95）
再生時：⊕（拡大）ボタン（120）

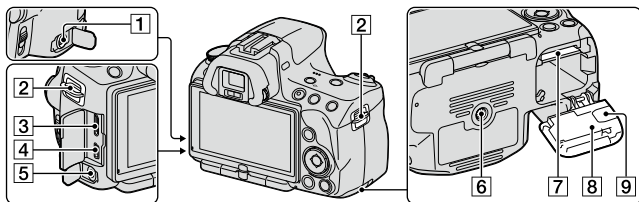
18 撮影時：☒（露出補正）ボタン（96）
再生時：⊖（縮小）ボタン（120）/▦（一覧表示）ボタン（121）

19 撮影時：Fn（ファンクション）ボタン（43、44）
再生時：↻（再生画像回転）ボタン（119）

⑳ コントロールボタン
メニューオン時：▲/▼/◀/▶
（42）
メニューオフ時：DISP（ディスプレイ）（表示切り換え）（36、117）/WB（ホワイトバランス）（108）/ 🕙/ ⧉（ドライブ）（112）/ISO（101）

㉑ コントロールボタン（実行ボタン）（42）/AFボタン（85）

***の付いたところは、直接手で触れないでください。**
****動画撮影時は手でふさがないようにしてください。**

本体側面/底面

1 REMOTE(リモート)端子

- リモートコマンダー RM-S1AM（別売）/RM-L1AM（別売）を本機とつなぐ場合は、リモートコマンダーのターミナルを、コードが前方に向くようにしてREMOTE端子のガイド溝に合わせて差し込んでください。

2 ショルダーストラップ取り付け部（26）

3 HDMI端子（130）

4 ⭠(USB)端子（165）

5 マイク端子

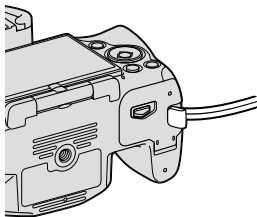
- 外部マイクを接続すると自動的に内蔵マイクから外部マイクに切り換わります。
  プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

6 三脚ネジ穴

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
  ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

7 メモリーカード挿入口（16）

8 バッテリー /メモリーカードカバー（16）

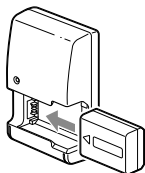
9 接続プレートカバー

- ACアダプター AC-PW20（別売）を使うときに使います。
  カバーを閉じるときは、コードを挟まないように注意してください。

準備する

バッテリーを充電する

初めてお使いになるときは、"インフォリチウム"バッテリー NP-FW50（付属）を、必ず充電してください。
"インフォリチウム"バッテリーは、使い切らない状態でも充電できます。また、充電が完了していない状態で使用することもできます。

1 **バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。**

カチッと音がするまで軽く押す。

2 **電源プラグを引き起こし、コンセントに取り付ける。**

点灯：充電中
消灯：充電完了

- 充電が終了すると、CHARGEランプが消える。
- バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電した場合の充電時間の目安は、約250分。

ご注意

- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- バッテリーチャージャーを取り付けるときは、お手近なコンセントをお使いください。
- 充電が完了してCHARGEランプが消えても電源からは遮断されません。使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

- 充電終了直後またはそれに近い状態のバッテリーを未使用のまま、何度も充電を繰り返さないでください。バッテリーの性能に影響します。
- バッテリーチャージャー（付属）で、"インフォリチウム" Wシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

準備する

海外で使用するには

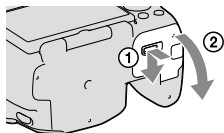
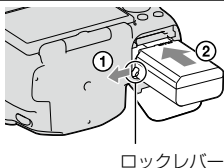
バッテリーチャージャーやACアダプター AC-PW20（別売）は全世界（AC100V ～ 240V・50/60Hz）で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

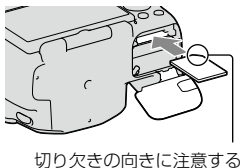
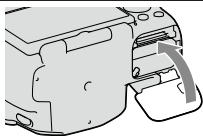
コンセント形状例	地域	変換プラグアダプター
	主に北米	不要
	主にヨーロッパ	必要

ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は不要です。故障の原因となるので使わないでください。

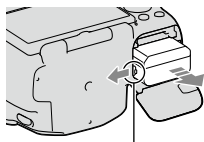
バッテリー/メモリーカード(別売)を入れる

1 カバーのオープンレバーを押し、カバーを開ける。

2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

3 メモリーカードを入れる。

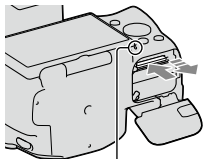
- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。

4 カバーを閉じる。

使用できるメモリーカード

- 本機で使用できるメモリーカードは、"メモリースティック PRO デュオ"、"メモリースティック PRO-HG デュオ"、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードです。マルチメディアカードは使用できません。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- 本書では"メモリースティック PRO デュオ"、"メモリースティック PRO-HG デュオ"を「"メモリースティック PRO デュオ"」と、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードを「SDカード」と表現しています。
- 動画撮影時は、以下のメモリーカードをおすすめします。
  - MEMORY STICK PRO DUO (Mark2)("メモリースティック PRO デュオ"(Mark2))
  - MEMORY STICK PRO-HG DUO("メモリースティック PRO-HG デュオ")
  - SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード(Class 4以上)
- SDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。
  対応していない機器に接続した場合、フォーマット(初期化)を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。(exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。)

バッテリーを取り出すには

電源を切り、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。

ロックレバー

メモリーカードを取り出すには

アクセスランプが点灯してないことを確認し、カバーを開けて、メモリーカードを1度押します。

バッテリー残量を確認するには

画面の残量表示マークと%表示で確認してください。

残量						「電池がなくなりました」
	多				少	撮影できません

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

"インフォリチウム"バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じたバッテリー残量を%単位で表示します。

バッテリー使用上のご注意

- 使用状況や環境によっては、残量表示は正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いと、バッテリーの性能は低下し、使用できる時間は短くなります。また、連写の速度も遅くなります。バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。

- フラッシュ撮影や連続撮影、電源の入り切りなどを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

メモリーカード使用上のご注意

- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。

- メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- メモリーカード本体にラベルなどを貼らないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。

本機で使用できる"メモリースティック"についてのご注意

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック PRO デュオ"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック PRO デュオ" *1*2*3	本機で使用可能です。	
"メモリースティック PRO-HG デュオ" *1*2	本機で使用可能です。	
"メモリースティック デュオ"	本機では使用できません。	
"メモリースティック" **"メモリースティック PRO"**	本機では使用できません。	

*1 マジックゲート搭載の"メモリースティック デュオ"です。
"マジックゲート"とは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。
本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。
*3 動画撮影時はMark2マークの付いたもののみ使えます。

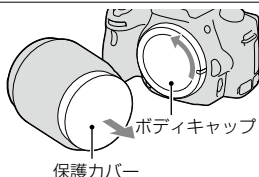
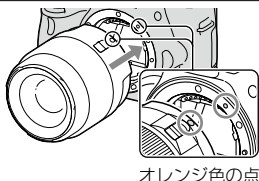
"メモリースティック マイクロ"(別売)使用上のご注意

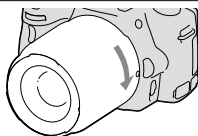
- 本製品は"メモリースティック マイクロ"("M2")に対応しています。"M2"は"メモリースティック マイクロ"の略称です。
- "メモリースティック マイクロ"を本機でお使いの場合は、必ず"メモリースティック マイクロ"をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、"メモリースティック マイクロ"が取り出せなくなる可能性があります。
- "メモリースティック マイクロ"は小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

- 使用可能な"メモリースティック"についての最新情報は、ホームページ上の「"メモリースティック"対応表」をご確認ください。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

レンズを取り付ける

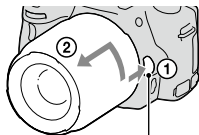
1 本機のボディキャップとレンズの後ろの保護カバーをはずす。

- カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所で素早く行う。

2 レンズと本機の2つのオレンジ色の点を合わせてはめ込む。

3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

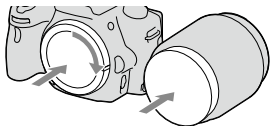
- レンズを斜めに差し込まない。

ご注意

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- Eマウントレンズには対応していません。
- 三脚座を備えたレンズを使用するときは、重量のバランスをとるためにレンズ側の三脚座を三脚に取り付けて使用してください。

レンズを取りはずすには

1 レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。

レンズ取りはずしボタン

2 本機とレンズにキャップを取り付ける。

- キャップは、ほこりを落としてから取り付ける。
- DT 18-55 mm F3.5-5.6 SAMレンズキットをご購入された場合は、通常のレンズリヤキャップが同梱されておりません。レンズをはずして保管する場合は、ALC-R55をお買い求めください。

レンズ交換時のご注意

レンズ交換の際に、カメラ内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムの役割を果す部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。
本機はアンチダスト機能によりゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。

イメージセンサーにゴミやほこりが付着した場合は

セットアップメニューの[クリーニングモード]で、イメージセンサーの清掃をしてください（32ページ）。

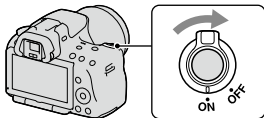
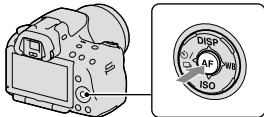
カメラ本体を準備する

日時を設定する

初めて電源を入れたときは、日時設定の画面が表示されます。

1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

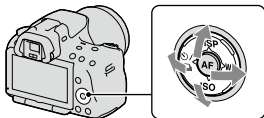
日時設定を要求する画面になる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。

2 液晶モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、コントロールボタンの中央を押す。

3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、コントロールボタンの中央を押す。

4 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

[サマータイム：]：日本では、サマータイムは[切]にする。

[表示形式：]：日付表示順を選ぶ。

- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

日時設定
サマータイム：
2010 - 1 - 1　12 : 00 AM
表示形式：　年-月-日
◀▶ 選択　⬍ 調整　● 決定

5 4の手順を繰り返して、すべて設定し、コントロールボタンの中央を押す。

6 [実行]が選ばれていることを確認し、コントロールボタンの中央を押す。

日時設定を中止するには

MENUボタンを押します。

日時設定をやり直すには

初めて電源を入れたときのみ、自動で日時設定画面が開きます。2回目以降はメニューで設定してください。

MENUボタン → ◷ 1 → [日時設定]を選ぶ。

エリア設定をやり直すには

本機を使用する場所の時刻に合わせることができます。海外旅行先などのエリアに合わせておくと、本機の時刻も更新されて便利です。

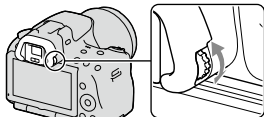
MENUボタン → ◷ 1 → [エリア設定]を選ぶ。

設定した日時の保持について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています。詳しくは192ページをご覧ください。

ファインダーの見えかたを調整する(視度調整)

ファインダー内の画面表示がはっきり見えるように、視力に合わせて視度調整ダイヤルを回す。

- 本機を明るいところに向けると、視度が合わせやすくなる。

ご注意

- 本機では視度調整アタッチメント(別売)は使用できません。

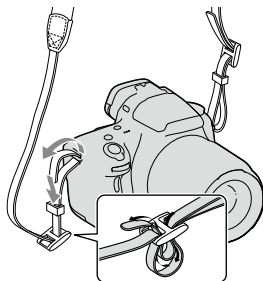
付属品の使いかた

ここでは、ショルダーストラップとアイカップの使いかたを説明します。

他の付属品は、以下のページで説明しています。

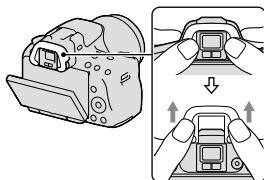
- リチャージャブルバッテリー（14ページ）
- バッテリーチャージャー（14ページ）
- USBケーブル（165ページ）
- CD-ROM（161ページ）

ショルダーストラップを取り付ける

ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付ける。

アイカップを取りはずす

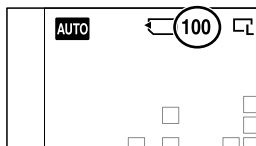
アングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときなどは、アイカップを取りはずします。

アイカップを取りはずす。

- アイカップの下部に指をおき、上方向にスライドさせる。

ご注意

- 本機ではマグニファイヤーやマグニファイング アイピースに対応していません。

撮影可能枚数を確認する

メモリーカードを入れて電源スイッチを「ON」にすると、画面に、撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

ご注意

- 撮影可能枚数が「0」で黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください（128ページ）。
- 撮影可能枚数が「NO CARD」で黄色く点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

画像サイズ：L 16M（SLT-A55V）/L 14M（SLT-A33）
横縦比3:2のとき*
“メモリースティック PRO デュオ”
SLT-A55V （単位：枚）

画質＼容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
スタンダード	386	781	1587	3239	6406
ファイン	270	548	1116	2279	4510
RAW＋JPEG	74	154	319	657	1304
RAW	106	220	452	928	1840

SLT-A33 **（単位：枚）**

画質＼容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
スタンダード	433	875	1778	3626	7172
ファイン	305	618	1258	2569	5083
RAW＋JPEG	84	176	362	745	1478
RAW	122	251	514	1054	2089

* ［静止画：横縦比］を［16:9］に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます（RAW設定時はのぞく）。

1つのバッテリーで撮影できる枚数

充電したバッテリー（付属）で撮影できる枚数の目安は以下の通りです。使用状況によって撮影可能枚数は異なります。

フラッシュ撮影あり

	SLT-A55V	SLT-A33
液晶モニターモード時	約380枚	約340枚
ファインダーモード時	約330枚	約270枚

フラッシュ撮影なし

	SLT-A55V	SLT-A33
液晶モニターモード時	約430枚	約380枚
ファインダーモード時	約370枚	約290枚

- 充電したバッテリーを使い、下記の条件で測定した数値です。
  - 温度が25℃
  - バッテリーチャージャーのCHARGEランプ消灯後、約1時間充電
  - 当社製の“メモリースティック PRO デュオ”（別売）使用
  - ［静止画：画質］が［ファイン］
  - オートフォーカスモードが［AF制御自動切り換え］
  - 30秒ごとに1回撮影
  - 10回に1度、電源を入/切する
  - ［GPS機能］が［入］

- フラッシュ撮影ありの枚数について
  – 2回に1度、フラッシュ発光する
  – 測定方法はCIPA規格による
  （CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）

本体のお手入れについて

カメラ本体の清掃

- レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりは画像やカメラ性能に影響を与えることがあるため、市販のブロアー *で吹き飛ばしてください。イメージセンサーの清掃は次のページをご覧ください。
  * スプレー式のブロアーは故障の原因となりますので使用しないでください。
- その他、本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。
  – シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
  – 上記が手についたまま本機を扱うこと
  – ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

イメージセンサーをクリーニングする

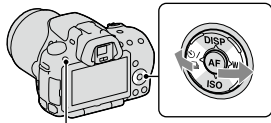
本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムに該当する部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

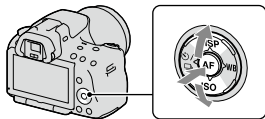
ご注意

- バッテリー残量が50%以下のときは、クリーニングモードは行えません。
- クリーニング中にバッテリー残量が少なくなった場合は、本機のブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、電源を切ってください。ACアダプター AC-PW20（別売）の使用をおすすめします。
- 清掃はすみやかに行ってください。
- スプレー式のブロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。

カメラで自動クリーニングを行うには

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する（18ページ）**。**

2 MENUボタンを押し、コントロールボタンの◀/▶で 🔧2を選ぶ。

MENUボタン

3 ▲/▼で[クリーニングモード]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

4 ▲で[実行]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とす。

5 **本機の電源を切る。**

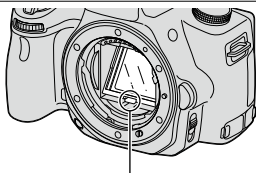
ブロアーを使って清掃を行うには

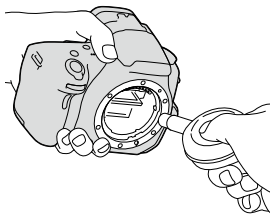
カメラで自動クリーニングを行ったあと、更に清掃が必要な場合には、以下の手順でブロアーを使った清掃を行ってください。

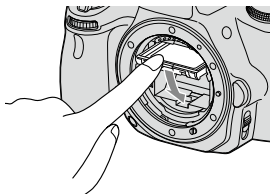
1 **「カメラで自動クリーニングを行うには」の1 ～ 4の手順でクリーニングモードを実行する。**

2 **レンズをはずす（23ページ）。**

3 **ミラーロックレバーの▼マーク部を指先で押し、ミラーを跳ね上げる。**

- ミラー表面には触らないように注意する。

4 **ブロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。**

- ブロアーの先端をイメージセンサーに当てないようにして、マウントより中に入れない。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにして手早く行う。
- ミラー裏面のほこりもブロアーで清掃する。

5 清掃終了後、カチッと音がするまで指でミラーを押し下げる。

- ミラーの枠の部分を指で押し下げる。ミラー表面には触れないように注意する。
- 確実にロックされるまで、ミラーを押し下げる。

6 レンズを取り付けて、本機の電源を切る。

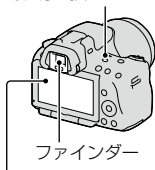
- レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認する。

ご注意

- 清掃終了後、レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認してください。レンズを傷つけたり、故障につながる場合があります。また、ミラーが下がり切っていないと、撮影の際、オートフォーカスでピント合わせができなくなります。
- ミラーを上げた状態のまま撮影することはできません。
- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

画面の表示

液晶モニターと液晶ファインダーを切り換える

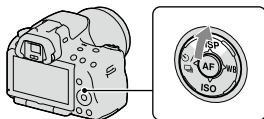
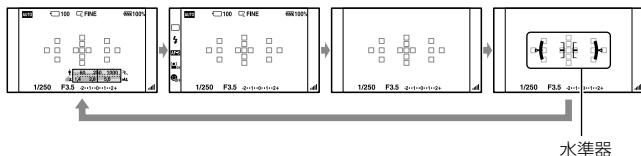
ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に切り換わり、離すと液晶モニター表示に戻ります。
FINDER/LCD切り換えボタンを押しても切り換えることができます。

ファインダーでより早くピントを合わせるには

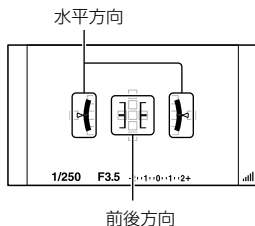
ファインダーをのぞくと、フォーカスエリア内の被写体に自動的にピント合わせをする（アイスタートAF）ように設定できます。

MENUボタン → ✿1 → [アイスタートAF] → [入]を選ぶ。

アングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときは、ファインダーの下のアイセンサーが作動することがあるため、[アイスタートAF]を[切]にして使用することをおすすめします。

撮影情報画面を切り換える（DISP）

撮影情報画面の表示は、コントロールボタンのDISPを押すたびに下記のように切り換わります。
ファインダーは撮影情報表示以外の切り換えになり、液晶モニターとは別に設定できます。

グラフィック表示　撮影情報表示（ライブビュー撮影用）　撮影情報表示オフ　水準器表示

水準器について

カメラの前後左右の傾きを指標で示します。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になります。

ご注意

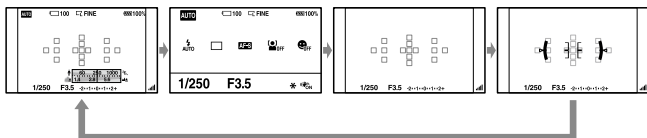
- 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなります。
- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

撮影情報表示(ファインダー撮影用)について

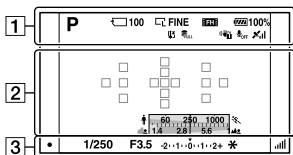
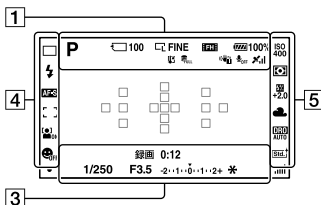
液晶モニターの撮影情報表示は、ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した撮影情報表示(ファインダー撮影用)に切り換えることができます。
ファインダーの表示はライブビュー表示になります。

MENUボタン → ✿2 → [撮影情報表示] → [ファインダー撮影用]を選ぶ。

コントロールボタンのDISPを押すたびに、下記のように画面表示が切り換わります。

グラフィック表示　撮影情報表示(ファインダー撮影用)　撮影情報表示オフ　水準器表示

撮影情報画面の表示（グラフィック表示/撮影情報表示（ライブビュー撮影用））

グラフィック表示ではシャッタースピード値と絞り値をグラフィカルに表現し、露出の仕組みを分かりやすくイメージ化して表現しています。

グラフィック表示

撮影情報表示（ライブビュー撮影用）

1

表示	意味
AUTO AUTO+ 3D 10 7 P A S M	撮影モード（56 ～ 76） • 10（SLT-A55V）/ 7（SLT-A33）
	メモリーカード（16）
100	撮影可能枚数（28）
L M S L M S WIDE STD 3D 16:9 3D STD 3D WIDE	静止画の画像サイズ（137）/静止画の画像横縦比（139）/パノラマ撮影の画像サイズ（138）

表示	意味
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質（140）
FH 1080 VGA	動画の画像サイズ（139）
100%	バッテリー容量（18）
	温度上昇警告（189）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（189）/管理ファイルエラー警告（189）
	手ブレ警告（54）
OFF	動画音声記録オフ（78）
ERROR	GPS測位状況（134）（SLT-A55Vのみ）

2

表示	意味
◯	スポット測光サークル（100）
	フォーカスエリア（85）
5 60 250 1000	シャッタースピードインジケータ（71）
1.4 2.8 5.6	絞りインジケータ（69）

3

表示	意味
録画 0:12	動画の記録時間（分：秒）
● (●) ( )	フォーカス（82）
1/250	シャッタースピード（71）
F3.5	絞り値（69）
-2··1··0··1··2+	測光インジケータ（74、115）
✱	AEロック（95）
	手ブレインジケータ（54）

4

表示	意味
Hi 10 BRK C 0.3EV BRK WB Lo	ドライブモード（112）
AUTO SLOW REAR WL HSS	フラッシュモード（91）/赤目軽減（93）

表示	意味
AF-A AF-S AF-C MF	フォーカスモード（84）
	フォーカスエリア（85）
ON OFF	顔検出（88）
ON OFF ON ON	スマイルシャッター（89）
	スマイル検出感度インジケータ（89）

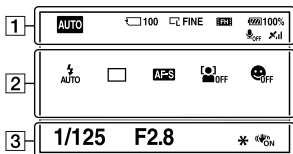
5

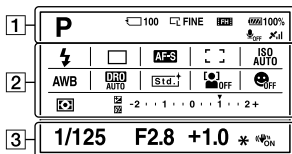
表示	意味
ISO 400 ISO 400	ISO感度（101）
	測光モード（100）
+2.0	調光補正（98）
AWB WB 7500K G9	ホワイトバランス（オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター）（108）
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	Dレンジオプティマイザー（102）/オートHDR（103）
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W	クリエイティブスタイル（105）

撮影の前に

撮影情報画面の表示（ファインダー撮影用）

（　）の数字は、参照ページです。

AUTO、AUTO アドバンス、シーンセレクション時

連続撮影優先AE、P、A、S、M時

1

表示	意味
AUTO AUTO+ 10 7 P A S M	撮影モード（56 ～ 76） • 10（SLT-A55V）/ 7（SLT-A33）
	メモリーカード（16）
100	撮影可能枚数（28）
L M S L M S	静止画の画像サイズ（137）/静止画の画像横縦比（139）
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質（140）
FH 1080 VGA	動画の画像サイズ（139）
100%	バッテリー容量（18）
OFF	動画音声記録オフ（78）

表示	意味
ERROR	GPS測位状況（134）（SLT-A55Vのみ）

2

表示	意味
AUTO SLOW REAR WL HSS	フラッシュモード（91）/赤目軽減（93）
Hi 10 BRK C 0.3EV BRK WB Lo	ドライブモード（112）
AF-A AF-S AF-C MF	フォーカスモード（84）
ON OFF	顔検出（88）
ON OFF ON ON	スマイルシャッター（89）
	フォーカスエリア（85）
ISO AUTO ISO 400	ISO感度（101）

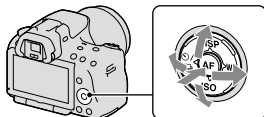
表示	意味
AWB 7500K G9	ホワイトバランス（オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター）（108）
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	Dレンジオプティマイザー（102）/オートHDR（103）
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W	クリエイティブスタイル（105）
	測光モード（100）
M.M.	露出補正（96）/メータードマニュアル（74）
	調光補正（98）
–2··1··0··1··2+	測光インジケータ（74、115）

3

表示	意味
1/125	シャッタースピード（71）
F2.8	絞り値（69）
+1.0	露出補正値（96）
✱	AEロック（95）
ON	手ブレ補正（54）

機能/設定の選びかた

撮影や再生などに使用する機能は、Fn（ファンクション）ボタン、MENU（メニュー）ボタンなどを押して選びます。

操作を開始すると、画面の下にコントロールボタンの働きを示す操作ガイドが表示されます。操作ガイドを確認しながら、操作してください。

◀▲▼▶：左右上下で選択
●：中央ボタンで決定

表示された一覧からコントロールボタンやFnボタンを使って、機能を選択、決定していく操作を、本書では以下のように記載しています。アイコンはお買い上げ時の状態で記しています。

例：Fnボタン→AWB（ホワイトバランス）→希望の機能を選ぶ

操作ガイド表示一覧

操作ガイドには、コントロールボタン以外のガイドも表示されます。それぞれの操作ガイドの意味は、以下のようになっています。

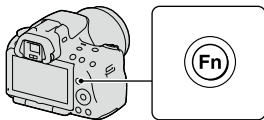
MENU	MENUボタン
MENU ↩	MENUボタンで元に戻る
🗑	🗑（削除）ボタン
⊕	⊕（拡大）ボタン
⊖	⊖（縮小）ボタン
▶	▶（再生）ボタン
(ダイヤル)	コントロールダイヤル

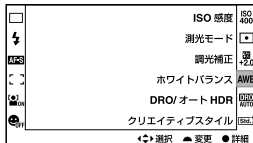
ヘルプガイドについて

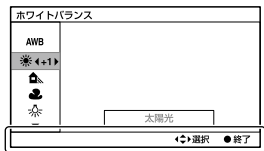
Fn（ファンクション）ボタン、MENU（メニュー）ボタンなどで選んだ機能に関する説明を表示します。表示しないようにすることもできます（150ページ）。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ

撮影時に比較的使用頻度が高い設定、機能を実行します。

1 Fnボタンを押す。

2 設定したい項目を、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選択、●（中央ボタン）で決定する。

設定画面が表示される。

3 希望の機能を、操作ガイドにしたがって選択、決定する。

- 設定方法の詳細は、各機能のページをご覧ください。

撮影情報画面のまま設定するには

手順2で、●（中央ボタン）を押さずにコントロールダイヤルを回すと、撮影情報画面のまま機能を設定できます。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ機能

シーンセレクション（60）	撮影状況に合わせて用意されたシーンセレクションのモードを選ぶ。
スイング撮影（63）	スイングパノラマ撮影をするか、3Dスイングパノラマ撮影をするか選ぶ。
ドライブモード（112）	1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー、ブラケットなどの撮影方法を設定する。
フラッシュモード（91）	自動発光や、強制発光、発光禁止など、フラッシュの発光方式を設定する。
オートフォーカスモード（84）	被写体の動きに応じたピント合わせの方法を選ぶ。
フォーカスエリア（85）	ピント合わせの位置を選ぶ。
顔検出（88）	人の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。
スマイルシャッター（89）	笑顔をとらえるたびに、自動撮影する。
ISO感度（101）	明るさに対する感度を設定する。数値が大きいほど、シャッタースピードをより速くすることができる。
測光モード（100）	明るさを測る方法を選ぶ。
調光補正（98）	フラッシュの発光量を調整する。数値を＋側にすると被写体が明るく、－側にすると、暗く写る。
ホワイトバランス（108）	画像の色あいを調整する。
DRO/オートHDR（102）	明るさ、コントラストを自動補正する。
クリエイティブスタイル（105）	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。

MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する基本設定を変更したり、機能の実行を行えます。
MENUボタンを押して、コントロールボタンの◀/▶で設定したいメニューのページを選び、▲/▼で項目を選びます。

撮影メニュー

静止画：画像サイズ（137）	静止画のサイズを選択する。
静止画：横縦比（139）	静止画の横縦比を選択する。
静止画：画質（140）	静止画の画質を設定する。
動画：記録方式（78）	動画の記録方式を選択する。
動画：画像サイズ（139）	動画のサイズを選択する。
動画：音声記録（78）	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。
手ブレ補正（54）	手ブレ補正の設定をする。

	パノラマ：画像サイズ(138)	パノラマ画像のサイズを選択する。
	パノラマ：撮影方向(65)	パノラマの撮影方向を設定する。
	3D**パノラマ：画像サイズ**(138)	3D画像のサイズを選択する。
	3D**パノラマ：撮影方向**(65)	3D画像の撮影方向を設定する。
	調光モード(99)	フラッシュの発光量を決める方法を設定する。
	AF**補助光**(93)	暗い場所でピントを合わせるために使う補助光の設定をする。
	色空間(106)	再現できる色の範囲を変更する。

	長秒時ノイズリダクション(147)	シャッタースピードを1秒以上にしていた場合のノイズ軽減処理を設定する。
	高感度ノイズリダクション(147)	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。

カスタムメニュー

	アイスタートAF（35）	ファインダーをのぞくと同時にオートフォーカスするかどうかを設定する。
	FINDER/LCD切換設定（153）	ファインダーと液晶モニターの切り換え方法を設定する。
	AELボタン（149）	露出を固定して撮影するAELボタンの操作方法を設定する。
	フォーカスホールドボタン（149）	レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定する。
	ピント拡大（149）	（削除）ボタンをピント拡大ボタンとして使用するかどうかを設定する。
	赤目軽減発光（93）	フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを抑えるかどうか設定する。
	レンズなし時のレリーズ（151）	レンズを取り付けていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。

	グリッドライン(153)	構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示の設定をする。
	ヒストグラム(97)	画面表示の切り換えにヒストグラム表示を含むかどうかを設定する。
	撮影情報表示(37)	液晶モニターの撮影情報表示をライブビュー撮影用またはファインダー撮影用から選択する。
	オートレビュー(153)	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。
	オートアドバンス連続撮影(59)	「AUTOアドバンス」時に連続撮影するかどうかを設定する。
	オートアドバンス画像抽出(59)	「AUTOアドバンス」時に連続撮影した画像をすべて保存するかどうかを設定する。

再生メニュー

	削除(128)	画像を削除する。
	静止画/動画切換(118)	静止画/動画の再生画面を切り換える。
	スライドショー(121)	スライドショーをする。
	一覧表示(121)	画像を一覧表示する。
	3D鑑賞(131)	3D対応テレビと接続して3D画像を再生する。
	プロテクト(127)	画像の保護/解除の設定をする。
	プリント指定(172)	プリントする画像の指定と解除をする。

	音量設定(119)	動画再生の音量を設定する。
	再生フォルダー選択(117)	画像を再生するフォルダーを変更する。
	日付選択(119)	他の日付の画像を表示する。
	縦記録画像の再生(118)	縦記録画像の再生方法を設定する。

メモリーカードツールメニュー

	フォーマット(144)	メモリーカードを初期化する。
	ファイル番号(142)	静止画と動画のファイル番号の付けかたを設定する。
	フォルダー形式(142)	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。
	記録フォルダー選択(143)	静止画を記録するフォルダーを設定する。
	フォルダー新規作成(143)	静止画と動画を記録する新しいフォルダーを作成する。
	管理ファイル修復(144)	動画の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。
	メモリーカード残量表示(144)	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。

時計設定メニュー

	日時設定（24）	日時を設定する。
	エリア設定（25）	使用する場所を設定する。

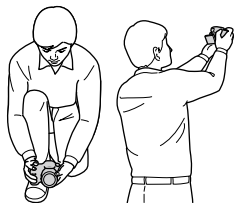
セットアップメニュー

	モニター明るさ（152）	液晶モニターの明るさを設定する。
	ファインダー明るさ（152）	ファインダーの明るさを設定する。
	GPS設定（134）（SLT-A55Vのみ）	GPS機能についての設定をする。
	パワーセーブ（150）	省電力モードになる時間を設定する。
	HDMI機器制御（132）	ブラビアリンク対応テレビから本機を操作するための設定をする。
	ヘルプガイド表示（150）	操作したときに表示される機能の説明をするヘルプガイドの表示を設定する。

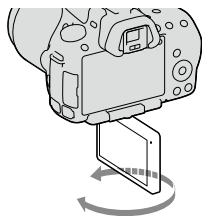
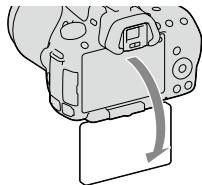
	アップロード設定（145）*	Eye-Fiカードを利用した本機のアップロード機能を設定する。
	USB接続（165）	USB接続の方法を設定する。
	電子音（150）	AF合焦時や、セルフタイマー作動時の電子音の有り無しを設定する。
	クリーニングモード（32）	イメージセンサーの清掃をするためのクリーニングモードにする。
	バージョン表示（154）	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
	デモモード（151）	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。
	設定値リセット（155）	設定を初期値に戻す。

* Eye-Fiカード（別売）挿入時のみ表示されます。

液晶モニターの角度を調節する

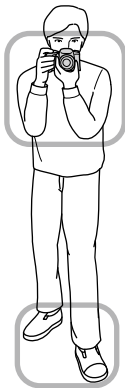
撮影状況に合わせて液晶モニターの向きを変えることができます。
自由なポジションで撮影できます。

ローポジション　ハイポジション

液晶モニターを見やすい角度に調節する。

- 手前に180°開きます。
- 右図のように、液晶モニターが前方に向いた状態から左に270°回転します。
- 使用しないときは、液晶モニターをカメラの内側に向けて収納することをおすすめします。

手ブレを抑えて撮る

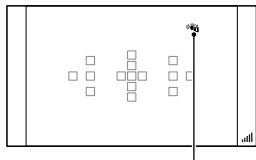
「手ブレ」とは、シャッターボタンを押したあとにカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。
手ブレを抑えるには、以下の方法があります。

正しく構える

上半身を安定させて、カメラが動かないように構える。

ポイント①
片手でカメラのグリップを持ち、もう片方の手でレンズの下側を支える。
ポイント②
両足を肩幅に広げて、下半身を安定させる。

ポイント③
脇を軽く締める。
低い姿勢で撮影するときは、膝のうえに、肘などを乗せるなどして、上半身を安定させる。

手ブレ警告表示について

手ブレの恐れがある場合は、(手ブレ警告)表示が点滅します。この場合は、三脚、またはフラッシュを使ってください。

(手ブレ警告)表示

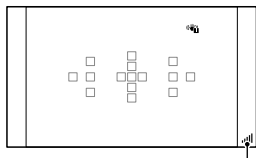
ご注意

- (手ブレ警告)表示は、自動でシャッタースピードを設定する撮影モードのときのみ表示されます。撮影モード「M」、「S」では表示されません。

手ブレ補正機能を使う

本機の手ブレ補正機能は、シャッタースピードで約2.5 ～ 4段の補正効果を発揮します。
お買い上げ時は手ブレ補正機能は[入]になっています。

手ブレインジケータについて

(手ブレインジケータ)は、手ブレ状態を表示しています。インジケータの点灯数が減るのを待って、撮影します。

(手ブレインジケータ)

手ブレ補正機能を停止するには

MENUボタン → 1 → [手ブレ補正] → [切]を選ぶ。

ご注意

- 電源スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。

三脚を使う

以下のような環境では、三脚を使った撮影がおすすめです。

- 暗い場所で、フラッシュを使わずに撮影するとき
- 夜景撮影などシャッタースピードが遅いとき
- マクロ撮影などの近距離撮影のとき
- 望遠レンズで撮影するとき

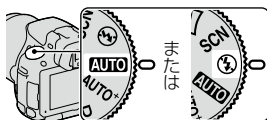
ご注意

- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作する恐れがあるため、手ブレ補正機能を[切]にしてください。

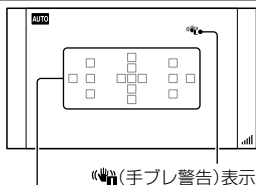
カメラまかせで撮る

AUTO/⊛自動で最適な設定で撮る

「AUTO」モードでは、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。
フラッシュ撮影が禁止されているような場所では ⊛ を選びます。

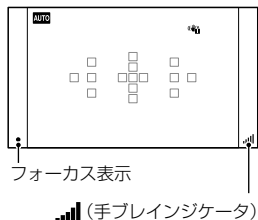
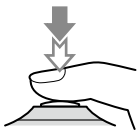
1 モードダイヤルを AUTO または⊛（発光禁止）にする。

2 液晶モニターを見やすい角度に調節して、本機を構える。

3 被写体をフォーカスエリアにあわせる。

- (手ブレ警告)表示が点滅した場合には、正しく構え直したり、三脚を使って撮影するなどして手ブレに注意して撮影する。

4 ズームレンズの場合は、ズームリングを回して、被写体の大きさを決める。

5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●または◉(フォーカス表示)が点灯する(82ページ)。

- ▁▃▅▇(手ブレインジケータ)の点灯数が減るのを待つと、手ブレ補正の効果が得やすい。

6 シャッターボタンを深く押し込んで、撮影する。

ご注意

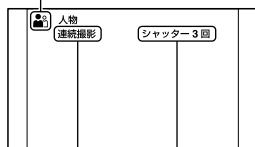
- 露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更ができなくなります。これらの機能の設定を行うときは、モードダイヤルを「P」にして撮影してください。

AUTO+ 自動で被写体を判別して撮る

本機が撮影状況を認識して、自動的に設定を行います。必要に応じて連続撮影し、合成や抽出によって最適な画像を保存します。

1 モードダイヤルを AUTO+（AUTOアドバンス）にする。

2 被写体にカメラを向ける。

シーンを認識すると、シーン認識マークと、認識したシーンに最適な撮影動作、連続撮影枚数が表示される。

3 ピントを合わせて撮影する。

自動で選択された設定で撮影される。

認識シーン

（夜景）	（手持ち夜景）	（風景）
（逆光＆人物）	（人物）	（三脚夜景）
（逆光）	（マクロ）	（夜景＆人物）

撮影動作

連続撮影（112）	スローシンクロ（91）	オートHDR（103）
日中シンクロ	スローシャッター	

連続撮影を設定するには

MENUボタン → ✿2 → [オートアドバンス連続撮影] → 希望の設定を選ぶ。

連続撮影した画像の保存方法を設定するには

連続撮影した場合に、本機が判断した最適な画像を保存するか、すべての画像を保存するか設定できます。

MENUボタン → ✿2 → [オートアドバンス画像抽出] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 認識シーンで[手持ち夜景]が選択された場合は、[オートアドバンス画像抽出]を[切]にしても、保存される画像は合成された1枚になります。
- 画像抽出した場合、記録されなかった画像のファイル番号がスキップされます。

被写体に合わせて撮る

撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できます。
モードダイヤルを回すと、そのモードで撮れる画像の説明や撮影方法などが画面に表示されます（ヘルプガイド表示）。

SCN 撮影状況に合わせて用意された設定で撮る（シーンセレクション）

こんなときに適しています

●撮影状況に合わせて用意された設定で撮る。

1 モードダイヤルを SCN（シーンセレクション）にする。

2 コントロールボタンの中央を押す。

3 ▲/▼で希望のモードを選び、コントロールボタンの中央を押す。

- 他のシーンにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

（ポートレート）	背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。 • 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にする。 • レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。 • 逆光のときは、レンズフード（別売）をつけて撮る。 • フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能（93ページ）を使う。
（スポーツ）	高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。 • シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。
（マクロ）	花や料理などに近づいて撮るときに適している。 • マクロレンズ（別売）を使えば、より近づいて撮影できる。 • 1 m以内で撮る場合は、フラッシュモードを発光禁止にする。 • 近距離撮影では、手ブレ補正の効果を得にくい。補正の効果が得られないときは三脚を使用する。 • ピントが合う最短距離は変わらない。
（風景）	風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。 • 風景の広大さをより強調するには、レンズを広角側にする。

（夕景）	夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。
（夜景）	暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 • 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがある。
（手持ち夜景）	三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレノイズを軽減して記録する。 • 以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなる。 – 動きの大きな被写体 – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体 – 波や滝など、常に模様が変化する被写体 • 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。
（夜景ポートレート）	夜景を背景に手前の人物を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。

撮影のテクニック

• より画像の仕上がりにこだわって撮影したい場合は、モードダイヤルを「P」「A」「S」「M」にしてクリエイティブスタイル（105ページ）を使用すると、露出やISOなどの機能を自分で設定して撮影できる。

ご注意

- 露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更できなくなります。
- フラッシュは各シーンセレクションモードごとに自動発光/発光禁止が設定されています。この設定を変更することもできます(91ページ)。

パノラマ画像を撮る(スイング撮影)

こんなときに適しています

●広大な景色や高層の建築物をそのままの迫力で撮る。

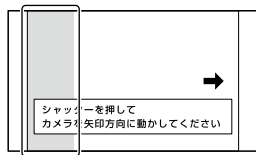
1 **モードダイヤルを (スイング撮影)にする。**

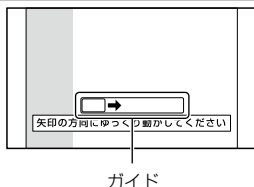
2 **コントロールボタンの中央を押す。**

3 **▲/▼で[スイングパノラマ]を選び、コントロールボタンの中央を押す。**

- [3Dスイングパノラマ]にしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

4 **撮りたい被写体の端にカメラを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合せる。**

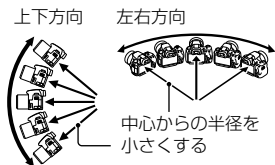
撮影する

5 シャッターボタンを深く押し込む。

6 画面に表示されている矢印の方向に、カメラをガイドの終わりまで動かす。

ご注意

- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。カメラを前後や左右に傾けないで、まっすぐに動かして撮影してください。
- 暗いシーンでは画像がブレたり、撮影ができない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はスイングパノラマ撮影に適していません。
  - 動いている被写体
  - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  - 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  - 波や滝など、常に模様が変化する被写体
  - 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はスイングパノラマ撮影が中断されることがあります。
  - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  - ブレすぎた場合
- スイングパノラマ中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。

スイングパノラマ撮影のポイント

一定の速度で円を描くように画面の矢印方向に動かしてください。パノラマ撮影は、止まっている被写体の撮影に適しています。

- スイングパノラマ撮影には、広角レンズのご使用をおすすめします。
- 焦点距離が長いレンズを使用する場合は、広角レンズ使用時よりもゆっくりと動かしてください。
- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出、ホワイトバランスをロックしてから、カメラを動かしてください。
- 複雑な形状や景色が画面の端に偏っていると、うまく合成できないことがあります。その場合は、それらが画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。
- 画像サイズは、MENUボタン → 📷2 → [パノラマ：画像サイズ]で希望の設定を選べます。

3D画像を撮影するには

モードダイヤルを ▭（スイング撮影）にして、[3Dスイングパノラマ]を選ぶと、3D画像を作成できます。スイングパノラマと同様に、カメラを動かして複数の画像を撮影し、合成して3D画像を作成します。

3D対応テレビで再生できます。3D撮影について詳しくは196ページをご覧ください。

撮影方向を変更するには

カメラを動かす方向を設定します。

MENUボタン → 📷2 → [パノラマ：撮影方向]または[3Dパノラマ：撮影方向] → 希望の設定を選ぶ。

高速連写で撮る（連続撮影優先AE）

こんなときに適しています

●動きの速い被写体を連続して撮り、瞬間をおさめる。
●刻々と変わる子供の表情を連続して撮り、お気に入りの画像を選ぶ。

1 モードダイヤルを (SLT-A55V)または (SLT-A33)（連続撮影優先AE）にする。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。
- 毎秒最高約10枚（SLT-A55V）、約7枚（SLT-A33）の速度で連続して撮影します。

撮影のテクニック

- オートフォーカスモードを[コンティニュアスAF]にすると、撮影している間フォーカスと露出を合わせ続ける。
- マニュアルフォーカスモード、またはオートフォーカスモードの[シングルAF]のときは、ISO感度と絞り値を設定できる。[シングルAF]のときのフォーカスは1枚目で固定される。

ご注意

- 顔検出は行いません。
- [オートHDR]に設定しているときは、一時的にDROの設定に従った処理が行われます。
- 速度は弊社測定条件によります。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。

思いどおりに撮る (露出モード)

レンズ交換式デジタルカメラでは、シャッタースピード(シャッターが開いている時間)と、絞り(ピントの合う範囲=被写界深度)を調節し、さまざまな写真表現を楽しむことができます。

シャッタースピードと絞りの設定は、動きやピントによる写真表現を作り出すと同時に、カメラ撮影に最も大切な露光量(カメラに取り込まれる光の量)を調節し、写真の明るさを設定します。

露光量による写真の明るさの変化

露光量 少ない ←→ 多い

例えば、シャッタースピードを速くしたときは、シャッターが開いている時間が短い=光を取り込む時間が短いことになるため、写真が暗くなります。写真を明るくするためには、その分だけ絞り(光が通る穴)を開き、一度にカメラに取り込まれる光の量を調節する必要があります。
このように、シャッタースピードと絞りで調節する写真の明るさを「露出」といいます。

ここでは、露出を調整して、動きやピント、光による写真表現を楽しむ方法を説明します。

P プログラムオートで撮る

こんなときに適しています

●露出はカメラにまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定に変更したい。

1 モードダイヤルを「P」にする。

2 撮影機能を希望の設定にする（81 ～ 116ページ）。

- フラッシュを発光したいときは ⚡ ボタンを押す。

3 ピントを合わせて撮影する。

A 背景のぼかし具合を調整して撮る（絞り優先）

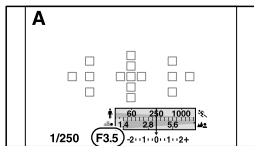
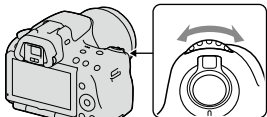
こんなときに適しています

●被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる（被写界深度が浅くなる）。

●風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる（被写界深度が深くなる）。

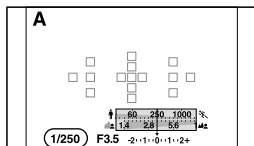
1 モードダイヤルを「A」にする。

2 コントロールダイヤルで、絞り値（F値）を選ぶ。

- 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
  絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- 液晶モニター /ファインダーの画像は変化しない。撮影した画像を確認して、絞り値を調整する。

絞り値（F値）

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。

撮影のテクニック

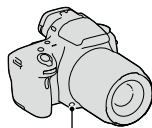
- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。
- 背景をよりぼかしたいときは、望遠レンズや、開放絞り値の小さいレンズ(明るいレンズ)を使う。
- プレビューボタンを押すと撮影前にぼかし具合を確認できる。

ご注意

- フラッシュを発光させたいときは、⚡ボタンを押してください。ただし、絞り値によって、フラッシュの届く範囲が異なります。フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲(調光距離)を確認してください(93ページ)。

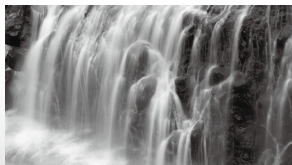
背景のぼかし具合いを確認して撮るには(プレビューボタン)

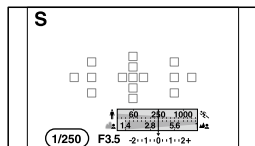
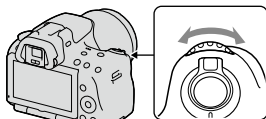
液晶モニター/ファインダーには、絞りが一番開いた状態の画像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合も変わるため、実際に撮影した写真のぼけ具合は撮影前に見ていた画像とは異なります。
プレビューボタンを押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます。

- ピントを合わせたあと、プレビューボタンを押す。
- プレビュー中に絞りを変更できる。

S 動くものの表現を変えて撮る（シャッタースピード優先）

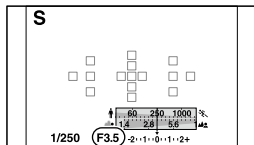
こんなときに適しています

- 一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。

- 動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 コントロールダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。

絞り値（F値）

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

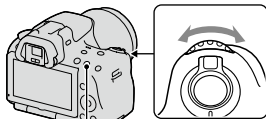
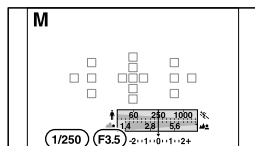
- シャッタースピード優先モードでは、（手ブレ警告）は表示されません。
- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影（長時間露光）すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。
- フラッシュを発光させたいときは、ボタンを押してください。ただし、シャッタースピードを遅くして絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。

M 手動で露出を決めて撮る（マニュアル露出）

こんなときに適しています

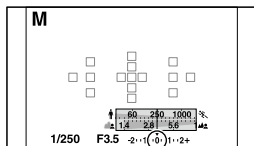
●絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。

1 **モードダイヤルを「M」にする。**

2 **シャッタースピードを調整するときはコントロールダイヤルを回し、絞り値を選ぶときは⊠ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回す。**

撮影する

3 露出を合わせて撮影する。

- 測光インジケータで露出値を確認する（メータードマニュアル*）。
  +側： 明るく写る
  −側：暗めに写る
  インジケータの範囲を超えると◀▶が点灯し、さらに差が開くと点滅する。

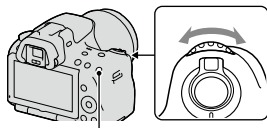
* Mモード設定時、測光インジケータ表示部を利用して、適正露光に対するアンダー /オーバーを指標にて示します。

基準値

ご注意

- マニュアルモードでは、（手ブレ警告）は表示されません。
- 撮影モードを「M」にすると、ISO感度の［AUTO］設定は［100］に切り換わります。「M」モードでは、ISO感度に［AUTO］はありません。必要に応じて、ISO感度を変更してください（101ページ）。
- フラッシュを発光させたいときは、ボタンを押してください。ただし、絞り値によって、フラッシュの届く範囲が異なります。フラッシュ撮影時はフラッシュ光の届く範囲（調光距離）を確認してください（93ページ）。

マニュアルシフト

設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

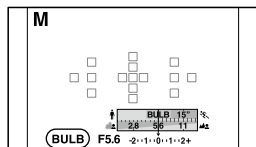
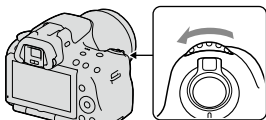
AELボタンを押しながらコントロールダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

AELボタン

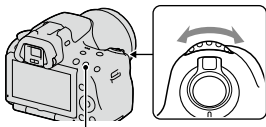
M 長時間露光で、動きの軌跡を撮る（バルブ撮影）

こんなときに適しています

- 花火の光が尾を引くような画像を撮る。
- 星の軌跡を撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 コントロールダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

3 ☒ ボタンを押しながらコントロールダイヤルで絞り値（F値）を選ぶ。

☒ ボタン

4 シャッターボタン半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

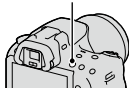
- 三脚に取り付けて撮影する。
- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にする。無限位置が分からないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影する。
- ワイヤレスリモコン（別売）を使う（116ページ）。リモコンのSHUTTERボタンを押すとバルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。リモコンのSHUTTERボタンを押し続ける必要はありません。
- シャッターボタンのロック機能を持つリモートコマンダー（別売）を使用すると、リモートコマンダーでシャッターを開けたままにできる。

ご注意

- 三脚を使う場合は、手ブレ補正機能をオフにしてください（55ページ）。
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理（長秒時ノイズリダクション）が行われます。処理中は撮影できません。
- スマイルシャッターまたはオートHDRを使用しているときは、シャッタースピードを[BULB]に設定できません。
- シャッタースピードを[BULB]に設定しているときに、スマイルシャッター、オートHDRを使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。

動画を撮る

1 MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を開始する。

- すべての撮影モードから動画撮影を開始できる。
- シャッタースピードと絞りは自動で設定される。
- オートフォーカスの場合は、ピントを合わせ続ける。

2 もう一度MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を終了する。

撮影のテクニック

- 以下の設定は、静止画撮影のときに設定した値を引き継ぐ。
  - ホワイトバランス
  - クリエイティブスタイル
  - 露出補正
  - フォーカスエリア
  - 測光モード
- 撮影中に露出補正を行える。
- フォーカスを合わせてから、録画を開始する。
- [フォーカスエリア]が[ローカル]のときは、撮影中にフォーカスエリアを変更できる。
- 背景のぼかし具合を思い通りにコントロールしたいときは、マニュアルフォーカスにして撮影モードを「A」にする。撮影前にコントロールダイヤルで希望の絞り値に設定できる。

ご注意

- 動画撮影時は静止画撮影時より撮影範囲（画角）が狭くなります。MOVIEボタンを押すと記録される範囲だけが表示されます（SLT-A33のみ）。
- 顔検出は行いません。

- 液晶モニターの表示がファインダー撮影用の場合、動画撮影を開始すると撮影情報表示に切り換わります。
- カメラを太陽など強い光源に向けて撮影しないでください。カメラの内部が故障する恐れがあります。
- AVCHD方式で記録した動画をパソコンに取り込むときは、「PMB」を使用してください（165ページ）。
- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇し、画質が低下する場合があります。
- [!] が表示された場合は本機の温度が上がっています。 本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってください。そのまま撮影を続けると、本機の電源が自動的に切れます。
- 明るい環境下でオートフォーカスを使って撮影すると、動きが滑らかにならない（高速シャッター）ことがあります。そのような場合は、マニュアルフォーカスでの撮影をおすすめします。
- 動画撮影中は、絞りを変更できません。

動画の記録方式を変更するには

MENUボタン → 1 → ［動画：記録方式］→ 希望のモードを選ぶ。

AVCHD	なめらかな映像をハイビジョンテレビで見るときに適した記録方式。 AVCHD、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。
MP4	WEBアップロードやメールなど、パソコンで見るのに適した記録方式。 MPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、mp4形式で記録される。

音声の記録について

動画撮影中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。三脚を使用するなどして、手ブレ補正機能をオフにすることでカメラの作動音は軽減します。
音声を記録しないように設定することもできます。

MENUボタン → 1 → [動画：音声記録] → [切]を選ぶ。

動画の画像サイズを変更するには

MENUボタン → 1 → [動画：画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

詳しくは139ページをご覧ください。

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルの合計記録時間の目安です。

撮影する

"メモリースティック PRO デュオ"

SLT-A55V （単位：時：分：秒）

容量 / 記録方式/サイズ	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
AVCHD 1920×1080	0:14:00	0:28:30	0:58:10	1:58:50	3:55:20
MP4 1440×1080	0:20:40	0:41:40	1:24:40	2:52:30	5:41:00
MP4 VGA	1:15:10	2:31:10	5:06:20	10:23:50	20:33:00

SLT-A33 （単位：時：分：秒）

容量 / 記録方式/サイズ	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
AVCHD 1920×1080	0:14:00	0:28:30	0:58:10	1:58:50	3:55:20
MP4 1440×1080	0:20:40	0:41:40	1:24:40	2:52:30	5:41:00
MP4 VGA	1:15:10	2:31:10	5:06:20	10:23:50	20:33:00

ご注意

- 表の数値は連続撮影時間ではありません。
- 撮影環境や使用するメモリーカードによって記録時間が異なる場合があります。
- [!] が表示された場合は動画撮影を終了してください。
  本機の温度が上がっています。
- 動画の再生については118ページをご覧ください。

動画の連続撮影についてのご注意

- APS-Cサイズのイメージセンサーを使った高精彩な動画や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。温度の上昇は画質への影響やカメラ内部に対して負荷が生じるので自動的に電源が切れる仕様となっています。
- しばらく電源を切った状態から撮影を開始した場合、下記の連続動画撮影が可能です（記録開始から停止するまでの時間になります）。動画撮影時は手ブレ補正を[切]に設定することでより長く撮影することができます。

	環境温度	手ブレ補正	
		[入]時	[切]時
SLT-A55V	20℃	約9分	約29分
	30℃	約6分	約13分
	40℃	約3分	約5分
SLT-A33	20℃	約11分	約29分
	30℃	約7分	約22分
	40℃	約4分	約9分

- 連続動画撮影時間は温度環境や動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、上記の動画撮影時間より短くなります。
- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまま数分間放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。（目安として、30℃環境において5～10分の放置後、約3～4分の撮影が可能となります。）
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
  – できるだけ直射日光を避ける
  – 使用しないときはこまめに電源を切る
  – 使用可能な場合には三脚を使用して、手ブレ補正を[切]にする
- 1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、MP4方式の場合は、自動的に記録が止まり、AVCHD方式の場合は、自動的に新しいファイルが作成されます。
- 動画の連続撮影は最長でも約29分で停止します。

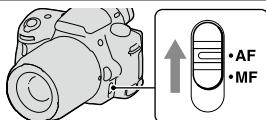
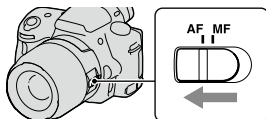
ピント合わせの方法を選ぶ

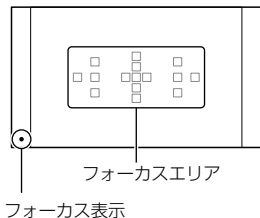
ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法(マニュアルフォーカス)があります。
レンズによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り換え方法が異なります。

レンズの種類	切り換える場所	オートフォーカスにするには	マニュアルフォーカスにするには
フォーカスモードスイッチあり	レンズ (カメラ側のフォーカスモードスイッチは常に「AF」でお使いください。)	レンズのフォーカスモードスイッチを「AF」にする。	レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。
フォーカスモードスイッチなし	カメラ	カメラのフォーカスモードスイッチを「AF」にする。	カメラのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

撮影機能を使う

オートフォーカスを使う

1 本機のフォーカスモードスイッチを「AF」にする。

2 レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にする。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントの状態を確認して撮影する。

- ピントが合うと、フォーカス表示が●または (◉) になる（下記）。
- ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になる。

撮影のテクニック

- ピント合わせに使うフォーカスエリアを選びたいときは、[フォーカスエリア]で設定する（85ページ）。

フォーカス表示の意味

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。撮影できる。
(◉) 点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。撮影できる。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターが切れない。
●点滅	ピントが合わず、シャッターが切れない。

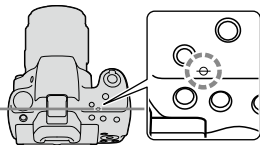
ピントが合いにくい被写体

下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影（83ページ）またはマニュアルフォーカス撮影（86ページ）を行ってください。

- 青空や白壁などコントラストのないもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの
- 光量が不足しているとき

撮影距離を正確に測るには

本機上面の ⊖ マークがイメージセンサー *面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー：デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

ご注意

• お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

被写体にピントを合わせ自由な構図で撮る（フォーカスロック）

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

ピントと露出が固定される。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

被写体の動きに合ったピント合わせの方法を選ぶ（オートフォーカスモード）

Fnボタン → AF-A（オートフォーカスモード） → 希望の設定を選ぶ。

AF-S（シングルAF）	シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定される。
AF-A（AF制御自動切り換え）	被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り換わる。 シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止しているときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。
AF-C（コンティニュアスAF）	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。 • ピントが合ったときの電子音は鳴らない。 • フォーカスロックはできない。

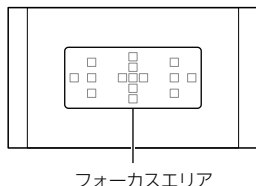
撮影のテクニック

- 動きのない被写体では、[シングルAF]を使う。
- 動いている被写体にピントを合わせるときは、[コンティニュアスAF]を使う。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクションの[ポートレート]、[風景]、[夕景]、[夜景]、[夜景ポートレート]、[手持ち夜景]では[AF制御自動切り換え]に、[マクロ]では[シングルAF]に、[スポーツ]では[コンティニュアスAF]に固定されます。
- スマイルシャッター中は[コンティニュアスAF]に固定されます。

ピント合わせの位置を選ぶ(フォーカスエリア)

撮影状況や好みに応じて、ピントを合わせやすいフォーカスエリアを選びます。ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になり、それ以外のフォーカスエリアの表示が消えます。

Fnボタン → [ ](フォーカスエリア)→ 希望の項目を選ぶ。

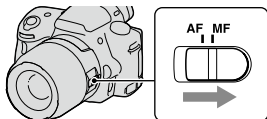
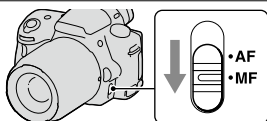
[ ](ワイド)	15個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
(中央に固定)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
(ローカル)	15個のフォーカスエリアからピントを合わせるフォーカスエリアをコントロールボタンで選ぶ。AFボタンを押して選択画面を表示して選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時またはスマイルシャッター使用時は[ワイド]に固定され、他のフォーカスエリアに変更できません。
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

2 レンズにフォーカスモードスイッチが付いてない場合は、本機のフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

3 レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

ご注意

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとフォーカス表示●が点灯します。ワイドフォーカスエリア時は中央のエリアが、ローカルフォーカスエリア時はコントロールボタンで選んだエリアが使用されます。
- テレコンバーター(別売)使用時などは、フォーカスリングの回転が重くなる場合があります。
- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません(25ページ)。

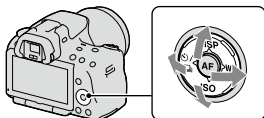
画像を拡大してピントを確認する

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENUボタン → ✿1 → [ピント拡大] → [入]を選ぶ。

2 ピント拡大ボタンを押す。

ピント拡大ボタン

3 さらにピント拡大ボタンを押して画像を拡大し、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で拡大位置を調整する。

- ズーム倍率は、ピント拡大ボタンを押すたびに、全体表示 → 約7.5倍 → 約15倍（SLT-A55V）/全体表示 → 約7.0倍 → 約14倍（SLT-A33）に切り換わる。

4 ピントの確認、調整をする。

- マニュアルフォーカス時は、フォーカスリングを回してピントの調整を行う。
- オートフォーカス時はAFボタンを押すと拡大表示が解除されピントを合わせる。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示は解除される。

5 シャッターボタンを押し込み撮影する。

- 拡大表示中のときにシャッターボタンを押しても撮影できるが、記録される画像は全体表示の範囲になる。
- 撮影後、拡大表示は解除される。

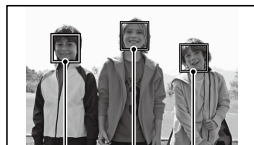
顔を検出して撮る

顔検出機能を使う

カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。お買い上げ時は顔検出機能は[入]になっています。

顔検出枠について

顔を検出すると、白色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠がオレンジ色になり、
シャッターボタンを半押しすると緑色になります。

- シャッターを半押ししたときに、オートフォーカス可能エリアに顔が検出されないときは、ピントを合わせたフォーカスエリアが緑色に表示されます。
- 複数の顔を検出した場合は、優先的に調整する顔を自動で選択し、1か所の顔検出枠がオレンジ色になります。

顔検出枠（白色）

顔検出枠（オレンジ色）

顔検出機能を停止するには

Fnボタン → （顔検出） → [切]を選ぶ。

撮影のテクニック

- 顔検出枠とフォーカスエリアが重なるように構図を工夫する。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「連続撮影優先AE」、動画撮影時は顔検出機能を使用できません。
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出されなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

笑顔を逃さず撮る(スマイルシャッター)

笑顔を検出すると自動で撮影します。

1 Fnボタン → (スマイルシャッター) → [入] → 希望のスマイル検出感度を選ぶ。

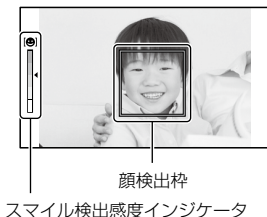
- スマイルシャッター作動中は、画面にスマイル検出感度インジケータが表示される。

2 笑顔を待つ。

笑顔を検出し、ピントが合い、スマイルレベルがインジケータの◀を超えると、自動で撮影される。

- 顔を検出するとオレンジ色の顔検出枠が表示され、ピントの合っている顔検出枠が緑色になる。
- 顔検出枠が二重枠で表示されている顔のスマイルレベルがインジケータに表示される。

顔検出枠

スマイル検出感度インジケータ

3 終了するときは、Fnボタン → (スマイルシャッター) → [切]を選ぶ。

スマイル検出感度

(ほほ笑み)、(普通の笑顔)、(大笑い)の3段階で、笑顔を検出する感度を変更できます。

- 笑顔にピントを合わせるには、顔検出枠とフォーカスエリアが重なるようにする。
- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「連続撮影優先AE」時は使用できません。
- ドライブモードは[1枚撮影]または[リモコン]のみになります。
- スマイルシャッター使用時はAF補助光が作動しません。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。

フラッシュを使う

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。

1 Fnボタン → ⚡(フラッシュモード) → 希望の設定を選ぶ。

2 ⚡ボタンを押す。

フラッシュ発光部が上がる。

- 「AUTO」、「AUTOアドバンス」やシーンセレクションでは、光量不足または逆光と判断したとき、自動的にフラッシュ発光部が上がる。⚡ボタンを押しても、フラッシュ発光部は上がらない。

3 フラッシュの充電が完了したら、撮影する。

●(フラッシュ充電)表示

● 点滅:フラッシュ充電中。点滅しているときは、シャッターは切れない。

● 点灯:フラッシュの充電が完了。フラッシュ撮影ができる。

- 暗所での撮影など、オートフォーカスでピントが合いにくい状況でシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する(AF補助光)。
- ● は撮影情報表示(ライブビュー撮影用)のときのみ表示される。

(発光禁止)	内蔵フラッシュを上げていても発光しない。
(自動発光)	光量不足/逆光と判断したとき発光する。
(強制発光)	必ず発光する。
(スローシンクロ)	必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。
(後幕シンクロ)	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。
(ワイヤレス)	外部フラッシュ（別売）を本機から取りはずして離して撮影する（ワイヤレスフラッシュ撮影）。

撮影のテクニック

- フラッシュ発光時はレンズフード（別売）でフラッシュ光がさえぎられ、画像に影が写ることがあるため、レンズフードを取りはずす。
- フラッシュ発光時は被写体から1 m以上離れて撮影する。
- 屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- 後幕シンクロを使って、走っている自転車や歩いている人など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。
- フラッシュ HVL-F58AM（別売）/HVL-F42AM（別売）を使うとシャッタースピード全域でフラッシュ撮影が可能なハイスピードシンクロ撮影ができる。詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- フラッシュ発光部をつかんで本機を持たないでください。
- 使用レンズにより、画像に影が写らない撮影条件は異なります。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は、[スローシンクロ]、[後幕シンクロ]、[ワイヤレス]の設定はできません。
- 撮影モード「P」「A」「S」「M」時は、[発光禁止]、[自動発光]の設定はできません。フラッシュを発光させたくないときは、発光部を下げてください。

- ステレオマイクロホンなどをオートロックアクセサリーシューに取り付けたままフラッシュを使うと、フラッシュ発光部が正常位置まで上がらず、画像に影が写ることがあります。ステレオマイクロホンなどを取りはずしてください。

フラッシュ光の届く距離

内蔵フラッシュは、ISO感度と絞り値によってフラッシュ光が届く範囲が変わります。以下の表を目安にしてください。

絞り値		F2.8	F4	F5.6
ISO感度	ISO 100	1〜3.6 m	1〜2.5 m	1〜1.8 m
	ISO 200	1〜5.1 m	1〜3.5 m	1〜2.5 m
	ISO 400	1.4〜7.1 m	1〜5 m	1〜3.6 m
	ISO 800	2〜10 m	1.4〜7.1 m	1〜5.1 m

AF補助光について

- [オートフォーカスモード]が AF-C（コンティニュアスAF）のとき、AF-A（AF制御自動切り換え）で被写体が動いているとき（フォーカス表示 (◉) または ( ) が点灯しているとき）は、AF補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。
- AF補助光機能のある外部フラッシュ（別売）を取り付けているときは、取り付けているフラッシュのAF補助光が発光します。
- スマイルシャッターが[入]のとき、AF補助光は発光しません。

AF補助光の発光を停止するには

MENUボタン → 📷2 → [AF補助光] → [切]を選ぶ。

赤目軽減機能を使うには

フラッシュ撮影時、撮影の直前にプリ発光（光量を抑えたフラッシュ）が何回か発光して目が赤く写るのを抑制します。

MENUボタン → ⚙1 → [赤目軽減発光] → [入]を選ぶ。

ワイヤレスフラッシュを使う

ワイヤレス撮影機能のあるフラッシュ（別売）を使うと、本機からフラッシュを取りはずした状態で、コードを使わずにフラッシュ撮影ができます。フラッシュの位置を工夫すると、被写体に陰影がつき、立体感がでます。
撮影の手順は、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

---

1 ワイヤレスフラッシュをオートロックアクセサリーシューに取り付け、本機とフラッシュの電源を入れる。

---

2 Fnボタン → ⚡（フラッシュモード）→ ⚡WL（ワイヤレス）を選ぶ。

---

3 ワイヤレスフラッシュを、オートロックアクセサリーシューからはずし、本機のフラッシュを上げる。

- テスト発光するには、本機のAELボタンを押す。

ご注意

- 本機ではワイヤレス光量比制御はできません。
- ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影すると、適正露出を得られません。
- ワイヤレスフラッシュ撮影している別のカメラの信号光を、ワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、✿ カスタムメニューの［AELボタン］（149ページ）を、［押す間AEL］に設定しておくことをおすすめします。

画像の明るさを調整する（露出、調光、測光）

明るさを固定して撮る（AEロック）

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、周囲の明るさの影響で、被写体にとって適正な露出にならないことがあります。このような場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。ここでは、測光モードを [•]（スポット測光）にして被写体をより明るく撮る例で説明します。

---

1 Fnボタン → [◎]（測光モード） → [•]（スポット測光）を選ぶ。

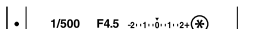
---

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

ピントが合うと、露出が設定される。

3 AELボタンを押して、露出を固定する。

✱（AEロックマーク）が点灯する。

1/500 F4.5 -2··1··0··1··2+ ⊛

4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

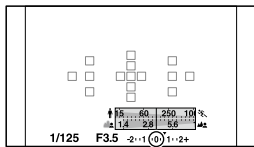
- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

画像全体の明るさを補正する（露出補正）

撮影モード「M」以外では、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、好みに応じて露出を＋側または－側に調整することを露出補正といいます。＋側に補正すると、画像全体を明るく、－側に補正すると、画像全体を暗くできます。

1 ☒ ボタンを押す。

2 コントロールダイヤルで希望の補正値を選ぶ。

＋（オーバー）側：画像が明るくなる。
－（アンダー）側：画像が暗くなる。

3 ピントを合わせて撮影する。

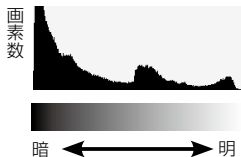
撮影のテクニック

- 撮影した画像を見て補正値を調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる（114ページ）。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は設定できません。

ヒストグラムを使って画面を確認しながら撮影するには

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。

MENUボタン → ✿2 → [ヒストグラム] → [入]を選ぶ。

- コントロールボタンのDISPを押していくと、グラフィック表示の代わりにヒストグラムが表示される。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。右はその輝度ヒストグラムの一例です。
＋側にすると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側にすると逆にずれます。
ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。

ご注意

- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
  - フラッシュ発光したとき
  - 夜景などの低輝度な被写体のとき

フラッシュ発光量を調整する（調光補正）

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体の露出を変更できます。

Fnボタン → ⚡️（調光補正）→ 希望の数値を選ぶ。

＋側：発光量を増やす。
－側：発光量を減らす。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。

- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近より遠くにあるときは、オーバー側（＋側）の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側（－側）の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度（AUTOの場合）が変化することによって補正が行われます。
調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

フラッシュ発光量を決める方法を選ぶ（調光モード）

MENUボタン → 📷2 → ［調光モード］ → 希望の設定を選ぶ。

ADI調光	フォーカスの距離情報とプリ発光による光量測定結果を組み合わせてフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光ができる。
P-TTL調光	プリ発光による光量測定結果だけでフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射による影響を受けやすい。

ADI：Advanced Distance Integrationの略
P-TTL：Pre-flash, Through the lensの略
- ［ADI調光］で、距離エンコーダー搭載レンズを用いると、より正確な距離情報をもとに、高精度な調光ができる。

ご注意

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（外部フラッシュ（別売）でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。

- 以下の場合は[ADI調光]だと正しい調光が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
  - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
  - ディフューザー（拡散板）を使ってフラッシュ撮影した場合
  - 露出倍数のかかるフィルター（NDなど）使用時
  - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。

明るさを測る方法を選ぶ（測光モード）

Fnボタン → （測光モード）→ 希望の設定を選ぶ。

（多分割測光）	複数に分割した画面を各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する。
（中央重点平均測光）	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光する。
（スポット測光）	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行う。

撮影のテクニック

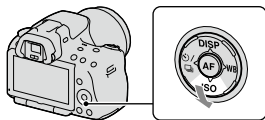
- 一般的な撮影では、[多分割測光]を使う。
- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体の露出をスポット測光で測って、AEロック撮影をする（95ページ）。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は、[多分割測光]に固定され、他の測光モードに変更できません。

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。数値が大きいほど高感度になります。

1 コントロールボタンのISOを押して、ISO感度画面を表示する。

2 コントロールボタンの▲/▼で希望の設定を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。
- ［マルチショットNR］を選んだ場合は、◀/▶で希望の数値を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は、ISO感度は「AUTO」に固定され、希望のISO感度に変更できません。
- 撮影モード「P」「A」「S」時、ISO感度を「AUTO」にすると、ISO 100 ～ 1600の値で自動設定されます。
- 撮影モード「M」には、ISO感度「AUTO」の設定がありません。「AUTO」の状態で撮影モードを「M」に切り換えると、「100」に切り換わります。撮影状況にあわせて、ISO感度を設定し直してください。

マルチショットノイズリダクション（マルチショットNR）について

自動的に複数枚の連写を行い、画像を合成し、ノイズを軽減して記録します。

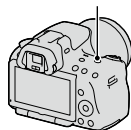
マルチショットノイズリダクションでは最大ISO感度よりも感度を上げることができます。

記録される画像は合成された1枚のみです。

ご注意

- 連写が終わるまでシャッターボタンを押し続けてください。
- ［静止画：画質］が［RAW］、［RAW+JPEG］のときは設定できません。
- フラッシュ、Dレンジオプティマイザー、［オートHDR］は使用できません。

明るさ、コントラストを自動補正する（Dレンジ）

D-RANGEボタン → 希望の設定を選ぶ。

D-R OFF（切）	DRO/オートHDR機能を使わない。
DRO（Dレンジオプティマイザー）	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
HDR（オートHDR）	露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にする。 適正露出画像と、合成された画像の2枚が記録される。

明るさを自動補正する（Dレンジオプティマイザー）

1 D-RANGEボタン → **DRO（Dレンジオプティマイザー）を選ぶ。**

2 コントロールボタンの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

DRO AUTO（オート）	本機が自動で調整する。
DRO（レベル設定）*	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～ 5（強）で最適化レベルを選ぶ。

* DRO と一緒に表示されるLv_は、現在の設定値。

ご注意

- シーンセレクションの[夕景]、[夜景]、[夜景ポートレート]、[手持ち夜景]では[切]に固定されます。これら以外のシーンセレクションでは[オート]に固定されます。
- Dレンジオプティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

階調豊かに自動補正する（Auto High Dynamic Range）

1 **D-RANGEボタン → HDR（オートHDR）を選ぶ。**

2 **コントロールボタンの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。**

HDR AUTO（露出差オート設定）	本機が自動で調整する。
HDR（露出差レベル設定）*	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。1.0Ev（弱）～ 6.0Ev（強）で最適化レベルを選ぶ。例：2.0Evでは－1.0Evの画像、適正露出の画像、＋1.0Evの画像の3枚が合成される。

* HDR と一緒に表示される_Evは、現在の設定値。

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意する。
  – 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する。
  – 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- RAW画像には設定できません。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は[オートHDR]を設定できません。
- スマイルシャッター中は、[オートHDR]を設定できません。[オートHDR]に設定しているときにスマイルシャッターを[入]にすると、一時的にDROの設定に従った処理が行われます。
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラが検出できた場合は、再生画像に HDR ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

画像処理を設定する

お好みの画像仕上がりを選ぶ(クリエイティブスタイル)

カメラまかせで撮影するシーンセレクションとは異なり、画像仕上がりに加え、露出(シャッタースピード/絞り)などを好みに応じて調整できます。

1 Fnボタン → Std.+ (クリエイティブスタイル) → **希望の設定を選ぶ。**

2 ◑ **(コントラスト)、** ⊛ **(彩度)、**◫**(シャープネス)を調整したいときは、コントロールボタンの◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。**

Std.+ (スタンダード)	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid+ (ビビッド)	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Port.+ (ポートレート)	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
Land.+ (風景)	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Sunset+ (夕景)	夕焼けの赤さを美しく表現する。
B/W+ (白黒)	白黒のモノトーンで表現する。

◑（コントラスト）、⊛（彩度）、◫（シャープネス）は、クリエイティブスタイルごとに調整できます。

◑（コントラスト）	＋側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
⊛（彩度）	＋側にするほど色が鮮やかになる。－側に設定すれば、控えめで落ち着いた色に再現される。
◫（シャープネス）	解像感を調整できる。＋側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、－側に設定すればやわらかな表現になる。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は、[スタンダード]に固定され、他のクリエイティブスタイルに変更できません。
- [白黒]を選択しているときは、彩度の調整はできません。

再現できる色の範囲を変更する（色空間）

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENUボタン → 📷2 → [色空間] → 希望の設定を選ぶ。

sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 • 撮影した画像のファイル名は、"_DSC"で始まる。

ご注意

- Adobe RGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe RGBで撮影した画像は、本機およびAdobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

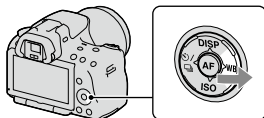
見た目どおりに色合いを調整する機能を、ホワイトバランスといいます。画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときに使います。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は、[オートホワイトバランス]に固定され、他のホワイトバランスモードに変更できません。
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られないため、フラッシュを発光して撮影してください。

光源を選んで調整する（オート/プリセットホワイトバランス）

コントロールボタンのWB → 希望の設定を選ぶ。

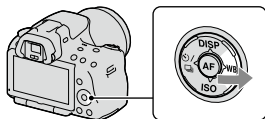
- [AWB]以外を選んだときは、必要に応じて、◀/▶で色合いを微調整できる。＋側にするほど赤みが強く、－側にするほど青みが強くなる。

AWB（オートホワイトバランス）	光源が自動判別され、適した色合いになる。
☀（太陽光）	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる（プリセットホワイトバランス）。
（日陰）	
（曇天）	
（電球）	
（蛍光灯）	
（フラッシュ）	

撮影のテクニック

- 選んだ設定では、思ったような色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う（116ページ）。
- ［5500K］（色温度）または、［0］（カラーフィルター）などを選ぶと、希望の数値に設定できる（下記）。
- ［カスタム］を選ぶと、設定したホワイトバランスを登録できる（110ページ）。

色温度とフィルター効果を設定する（色温度/カラーフィルター）

コントロールボタンのWB → ［5500K］（色温度）、または［0］（カラーフィルター）を選ぶ。

- 色温度を設定するには、◀/▶で数値を選ぶ。
- カラーフィルターを設定するには、◀/▶で補正する方向を選ぶ。

ご注意

- カラーメーターは、フィルムカメラ用のため、蛍光灯/ナトリウム灯/水銀灯の光源下では、異なった値になります。カスタムホワイトバランスの使用または、試し撮りをおすすめします。

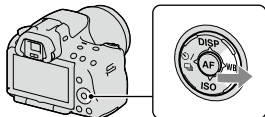
5500K*1 **(色温度)**	ホワイトバランスを色温度で設定する。 数値が高いほど赤みが強く、低いほど青みが強くなる。
0*2 **(カラーフィルター)**	写真用のCC(色補正フィルター)と同様の効果が得られる。 設定した色温度を基準にG(Green)方向、または、M(Magenta)方向に色を補正できる。

*1 数値は、現在設定されている色温度

*2 数値は、現在設定されているカラーフィルター

色合いを登録する(カスタムホワイトバランス)

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

1 コントロールボタンのWB → (カスタム)を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で[SET]を選び、中央を押す。

3 白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えてシャッターボタンを深く押し込む。

シャッター音がして、取り込んだ値(色温度とカラーフィルター)が表示される。

4 コントロールボタンの中央を押す。

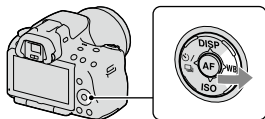
登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。

ご注意

- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。値は登録され、撮影情報画面の 表示が黄色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

コントロールボタンのWB → （カスタム）を選ぶ。

ご注意

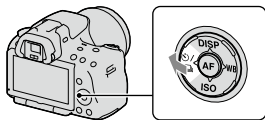
- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

⏱/⧉ドライブモードを選ぶ

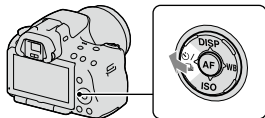
本機には、1枚撮影、連写など、6種類のドライブモードがあります。
撮影の目的に合わせて使用してください。

1枚撮影する

通常の撮影方法です。

コントロールボタンの⏱/⧉→□（1枚撮影）を選ぶ。

ご注意

- シーンセレクションの［スポーツ］を選んでいるときは、1枚撮影できません。

連続して撮る

下記*の速度で連続して撮影します。

	SLT-A55V	SLT-A33
⧉Hi	毎秒最高約6枚	毎秒最高約6枚
⧉Lo	毎秒最高約3枚	毎秒最高約2.5枚

* 弊社測定条件による。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。

1 コントロールボタンの ⏱/□ → □(連続撮影) → 希望の速度を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。

最大連続撮影枚数

連続撮影の枚数には上限があります。

連続撮影優先AE時

	SLT-A55V	SLT-A33
ファイン	28枚	14枚
スタンダード	28枚	16枚
RAW＋JPEG	19枚	7枚
RAW	19枚	7枚

撮影のテクニック

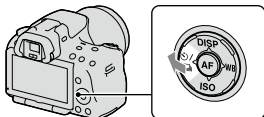
- より高速で連写するには、撮影モードを「連続撮影優先AE」にする（66ページ）。

ご注意

- □Hi のときは、連写のコマ間に撮影された画像が表示されます。
- シーンセレクションの場合、［スポーツ］以外のモードでは連続撮影できません。
- ［顔検出］が［入］のときは、連写速度が遅くなることがあります。

セルフタイマーで撮る

10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利です。

1 コントロールボタンの ⏲/ ▭ → ⏲（セルフタイマー）→ 希望の設定を選ぶ。

- ⏲ の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの設定。

2 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマーを中止するには

コントロールボタンの ⏲/ ▭ を押します。

露出をずらして撮る（ブラケット撮影）

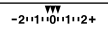
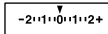
基準となる露出

−に補正

＋に補正

露出を段階的にずらして撮影することをブラケット撮影といいます。基準の露出に対して、上下にずらす値の幅（段数）を指定すると、自動的に露出値をずらして合計3枚の画像を撮影します。撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続け撮影します。フラッシュ発光時はフラッシュブラケットになり、調光量をずらして撮影します。このときは、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

1 コントロールボタンの ◌ /◌ → BRK C（連続ブラケット）→ 希望の段数を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

基準の露出は、1枚目で設定される。

- 撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続ける。フラッシュ発光時は3回シャッターボタンを押す。

ご注意

- モードダイヤルが「M」のときは、シャッタースピードを変化させて、露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」またはシーンセレクションを選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。

ブラケット撮影時の測光インジケータ

	定常光*ブラケット 段数0.3段　3枚 露出補正±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段　3枚 調光補正－1.0段
液晶モニター /ファインダー	▼▼▼ -2··1··0··1··2+	▼ -2··1··0··1··2+
液晶モニター（ファインダー撮影用のとき）	▼▼▼ -2··1··0··1··2+ （上段に表示）	▼ -2··1··0··1··2+ ▲ ▲ ▲ （下段に表示）

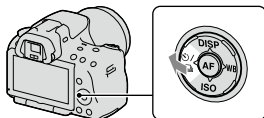
* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標が測光インジケータに表示されます。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えて行きます。

ホワイトバランスをずらして撮る（ホワイトバランスブラケット撮影）

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

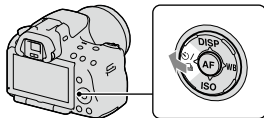
1 コントロールボタンの / → BRK WB（ホワイトバランスブラケット）→ 希望の設定を選ぶ。

- Loのときは10ミレッド*、Hiのときは20ミレッドの幅がずれる。

2 ピントを合わせて撮影する。

* ミレッド：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位。

リモコンを使って撮る

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1（別売）のSHUTTERボタン、2SECボタン（2秒後にシャッターを切る）を使って撮影します。
リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 コントロールボタンの / → （リモコン）を選ぶ。

2 ピントを合わせ、リモコン発光部を本機のリモコン受光部に向けて撮影する。

再生する

最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

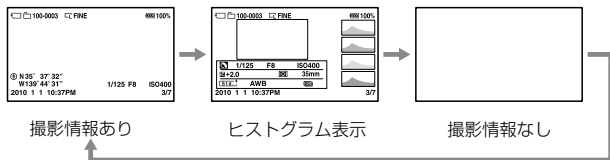
1 ▶ボタンを押す。

2 コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

撮影モードに戻るには

もう一度 ▶ボタンを押します。

撮影情報表示を切り換えるには

コントロールボタンのDISPを押します。
コントロールボタンのDISPを押すたびに、下記のように画面表示が切り換わります。

再生するフォルダーを選ぶには

MENUボタン → ▶ 2 → [再生フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

縦位置で撮影した画像の再生方法を選ぶには

MENUボタン → ▶ 2 → [縦記録画像の再生] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- テレビやパソコンで再生する場合は、[横向き]にしていても縦向きになります。

パノラマ画像をスクロール再生するには

パノラマ画像を選び、コントロールボタンの中央を押します。もう一度中央を押すと一時停止します。[3Dパノラマ：画像サイズ]を[16：9]にして撮影した3Dパノラマ画像はスクロール再生できません。

動画を再生する

1 MENUボタン → ▶ 1 → [静止画/動画切換] → [動画] を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で再生する動画を選び、中央を押す。

動画再生中にできること	コントロールボタン/コントロールダイヤル操作
一時停止/再生	●
早送り	▶
早戻し	◀
正方向スロー再生	一時停止中にコントロールダイヤルを右に回す
逆方向スロー再生	一時停止中にコントロールダイヤルを左に回す
音量	▼ → ▲/▼
情報表示	▲

音量を設定するには

MENUボタン → ▶ 2 → [音量設定] →希望の数値を選ぶ。

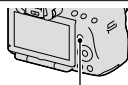
再生する日付を選ぶには
動画は日付ごとに保存されています。

MENUボタン → ▶ 2 → [日付選択] →希望の日付を選ぶ。

ご注意

- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

回転する

1 回転したい画像を表示して、⟲ ボタンを押す。

⟲ ボタン

2 コントロールボタンの中央を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは、手順2を繰り返す。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持される。

通常再生画面に戻るには
▶ ボタンを押します。

ご注意

- 動画は回転できません。
- パソコンに取り込んだ画像は、CD-ROM(付属)内の「PMB」では、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

拡大する

静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、⊕ ボタンを押す。

2 ⊕ ボタン、⊖ ボタンで希望の大きさに拡大する。

- コントロールダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられる。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できる。

3 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で、拡大する場所を選ぶ。

拡大再生を終了するには

▶ ボタンを押すと、拡大前の画像に戻ります。

拡大倍率範囲

拡大倍率範囲は下記の通りです。

画像サイズ	拡大倍率範囲	
	SLT-A55V	SLT-A33
L	約1.1 ～ 11.8倍	約1.1 ～ 11.8倍
M	約1.1 ～ 8.8倍	約1.1 ～ 8.0倍
S	約1.1 ～ 6.0倍	約1.1 ～ 5.5倍

一覧表示画面にする

MENUボタン → ▶ 1 → [一覧表示] →希望の表示枚数を選ぶ。

- ▦ ボタンを押しても一覧表示画面になる。

1枚再生画面表示に戻るには

表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールボタンの中央を押します。

動画の一覧表示画面にするには

コントロールボタンの◀/▶で、静止画・動画切り換えタブの ▭ (動画)を選び、コントロールボタンの中央を押します。

静止画・動画切り換えタブ

自動再生する(スライドショー)

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [実行]を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、コントロールボタンの◀/▶で、画像を戻す/送ることができる。
- 一時停止はできない。

途中で終了するには

コントロールボタンの中央を押します。

画像を切り換える間隔を変更するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [間隔設定]→ 希望の秒数を選ぶ。

繰り返し再生するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [リピート] → [入]を選ぶ。

動画を再生するには

静止画と動画は同時に再生できません。[静止画/動画切換]で動画再生に切り換えてから動画記録方式を選んでください。

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [動画種別] → 希望の動画記録方式を選ぶ。

3D画像を再生するには

HDMIケーブル(別売)で3D対応テレビと接続すると、本機の3Dスイングパノラマ撮影した3D画像を自動再生してお楽しみ頂けます。
3D撮影について詳しくは196ページをご覧ください。
テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [画像種別] → [3Dのみ(3D表示)]を選ぶ。

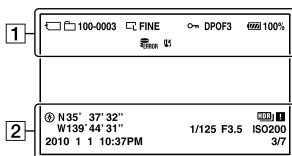
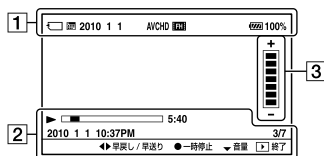
撮影した画像の情報を見る

コントロールボタンのDISPを押すたびに撮影情報表示が切り換わります（117ページ）。

基本情報画面

静止画

動画

1

表示	意味
（メモリーカードアイコン）	メモリーカード（16）
（静止画ビューアイコン）（動画ビューアイコン）	静止画ビューアイコン/動画ビューアイコン
100-0003	フォルダー番号ーファイル番号（166）
2010 1 1	撮影日
L M S L M S WIDE STD 3D 16:9 3D STD 3D WIDE	静止画の画像サイズ（137）/静止画の画像横縦比（139）/パノラマ撮影の画像サイズ（138）
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質（140）
（プロテクトアイコン）	プロテクト（127）
DPOF3	DPOF（プリント）指定（172）
（バッテリー残量警告アイコン）	バッテリー残量警告（18）
100%	バッテリー容量（18）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（189）/管理ファイルエラー警告（189）
（温度上昇警告アイコン）	温度上昇警告（189）
AVCHD MP4	動画記録方式（78）
FH 1080 VGA	動画の画像サイズ（139）

再生機能を使う

2

表示	意味
(GPS icon)	GPS情報（SLT-A55Vのみ）
N35° 37' 32" W139° 44' 31"	緯度・経度表示（SLT-A55Vのみ）
2010 1 1 10:37AM	撮影日時
(HDR ! icon)	オートHDR画像警告（103）
1/125	シャッタースピード（71）
F3.5	絞り値（69）
ISO200	ISO感度（101）
3/7	画像番号/全体の画像数
►	再生
(playback bar)	再生バー
5:40	カウンター

3

表示	意味
(volume icon)	音量

ヒストグラム画面

1

表示	意味
(メモリーカードアイコン)	メモリーカード(16)
(フォルダアイコン)	静止画
100-0003	フォルダー番号–ファイル番号(166)
L M S / L M S / WIDE / STD / 3D 16:9 / 3D STD / 3D WIDE	静止画の画像サイズ(137)/静止画の画像横縦比(139)/パノラマ撮影の画像サイズ(138)
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質(140)
(プロテクトアイコン)	プロテクト(127)
DPOF3	DPOF(プリント)指定(172)
(バッテリー残量警告アイコン)	バッテリー残量警告(18)
100%	バッテリー容量(18)
FULL ERROR	管理ファイルフル警告(189)/管理ファイルエラー警告(189)
(温度上昇警告アイコン)	温度上昇警告(189)

2

表示	意味
(ヒストグラムアイコン)	ヒストグラム*(97)
AUTO AUTO+ 3D 10 7 P A S M (シーンアイコン)	撮影モード(56 ~ 76) • 10(SLT-A55V)/ 7(SLT-A33)
1/125	シャッタースピード(71)
F3.5	絞り値(69)
ISO200	ISO感度(101)
–0.3	露出補正(96)
–0.3	調光補正(98)
(測光モードアイコン)	測光モード(100)
35mm	レンズ焦点距離(176)
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W	クリエイティブスタイル(105)
AWB +1 5500K M1	ホワイトバランス(オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム)(108)

表示	意味
D-R OFF DRO HDR HDR !	Dレンジオプティマイザー（102）/オートHDR/オートHDR画像警告（103）
2010 1 1 10:37AM	撮影日時
3/7	画像番号/全体の画像数

* 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

保護する(プロテクト)

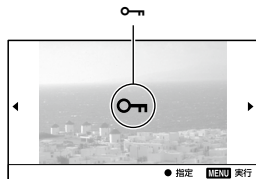
画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。

画像を選んで保護する/解除する

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [画像選択]を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で保護したい画像を選んで、中央を押す。

画像にO┯マークが付く。

- 解除するときは、もう一度押す。

3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[実行]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

画像の保護をまとめて解除するには

表示しているフォルダー内の画像や、表示している日付の動画の保護をまとめて解除します。

MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [静止画全て解除] または [動画全て解除]を選ぶ。

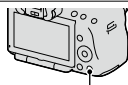
削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

再生中の画像を削除する

1 削除したい画像を表示して 🗑 ボタンを押す。

🗑 ボタン

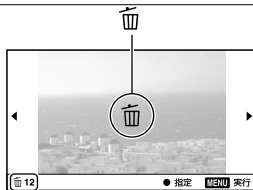
2 コントロールボタンの▲で［削除］を選び、中央を押す。

画像を選んで削除する

1 MENUボタン → ▶ 1 → ［削除］ → ［画像選択］を選ぶ。

2 コントロールボタンで削除したい画像を選び、中央を押す。

画像に🗑マークが付く。

🗑

合計枚数

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[削除]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

フォルダー内の静止画をまとめて削除する

表示しているフォルダー内の静止画をすべて削除します。静止画再生時のみ表示されます。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [フォルダー内全て]を選ぶ。

2 コントロールボタンの▲で[削除]を選び、中央を押す。

同じ日付の動画をまとめて削除する

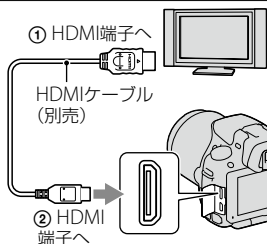
表示している日付内の動画をすべて削除します。動画再生時のみ表示されます。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [日付内全て]を選ぶ。

2 コントロールボタンの▲で[削除]を選び、中央を押す。

テレビで見る

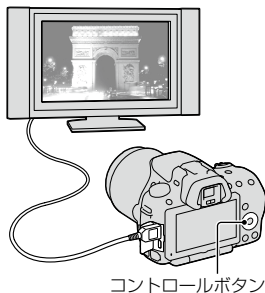
本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル（別売）と、HDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

- テレビの取扱説明書も合わせてご確認ください。

3 本機の電源を入れる。

撮影した画像がテレビに表示される。コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

- 本機の液晶モニターは点灯しない。

ご注意

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。

- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。

“ブラビア プレミアムフォト”について

本機は“ブラビア プレミアムフォト”に対応しています。
“ブラビア プレミアムフォト”に対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続出力すると、写真を今までになかった感動のFull HD高画質で快適にお楽しみいただけます。
“ブラビア プレミアムフォト”対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のUSBケーブルでも接続できます。
“ブラビア プレミアムフォト”とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。

ブラビア“フォトマップ”について（SLT-A55Vのみ）

本機はブラビアの“フォトマップ”に対応しています。
ブラビアの“フォトマップ”に対応したソニー製テレビにUSBケーブルで接続出力すると、位置を記録した写真の場合は、撮影場所を地図で表示して楽しむことができます。

3D対応テレビで3D画像を見るには

HDMIケーブル（別売）で3D対応テレビと接続すると、本機の3Dスイングパノラマ撮影した3D画像をお楽しみ頂けます。
3D撮影について詳しくは196ページをご覧ください。
テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

MENUボタン → ▶ 1 → [3D鑑賞]を選ぶ。

ブラビアリンクを使う

本機とブラビアリンクに対応のテレビをHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンで操作できます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する（130ページ）。

テレビの入力が自動で切り換わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

3 リモコンのボタンで操作する。

リンクメニューの項目

スライドショー	自動再生する（121ページ）。
1枚再生	1枚再生画面に戻る。
静止画・動画切換	静止画を再生するか、動画を再生するかを選ぶ。
一覧表示	一覧表示画面にする。
3D鑑賞	3D対応テレビと接続して3D画像を再生する。
再生フォルダー選択	再生するフォルダーを選ぶ。
日付選択	再生する日付を選ぶ。
削除	画像を削除する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク（リンクメニュー対応）」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、セットアップメニューの[HDMI機器制御]を[切]にしてください。

海外のテレビで見る(カラーテレビ出力方式)

本機で撮影した画像をテレビで見るときは、本機と同じカラーテレビ方式(NTSC)のテレビが必要です。

NTSC方式(1080 60i)

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、バハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式(1080 50i)

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スウェーデン、スイス、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式(1080 50i)

ブラジル

PAL-N方式(1080 50i)

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式(1080 50i)

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

GPSを使う(SLT-A55Vのみ)

本機に内蔵されているGPS機能が位置情報を取得した状態で撮影を行うと、画像に位置情報が記録されます。
付属のソフトウェア「PMB」を使うと、位置を記録した画像をパソコンに取り込んで地図と一緒に楽しむことができます。
詳しくは「PMBヘルプ」をご覧ください。

MENUボタン → 🔧1 → [GPS設定] → [GPS機能] → [入]を選ぶ。

衛星からの電波の受信状況によって、画面に表示されるアイコンが変わります。

画面表示	GPS受信状況
非表示	[GPS機能]が[切]になっている。
(アイコン)	位置情報が記録できない状態。空の開けた場所に移動してください。
(アイコン)	位置情報を算出中。位置情報が記録可能になるまでお待ちください
(アイコン)	最後に取得した位置情報が記録される。正しい位置情報を記録するには、空の開けた場所に移動してください。
(アイコン)	現在の正しい位置情報が記録可能な状態。
ERROR	GPS機能の異常が起きている。本機の電源を入れ直してください。

GPSの電波を受信するには

- 屋内や高い建物の近くではうまく測位できません。屋外の空の開けた場所に移動して、本機の電源を入れ直してください。
- 位置情報を取得できるまで数十秒から数分かかることがあります。GPSアシストデータを利用することで、測位時間を短くすることができます。

ご注意

- 電源を入れたときは、位置情報を取得できるまで数十秒から数分かかるこ

とがあります。取得できていない間は前回取得した位置情報が記録されるので、前回電源を切った場所から大きく離れていると、誤差が大きくなります。正しい位置情報を記録するためには、GPSの電波を受信できる状態にしてから撮影してください。
- 飛行機の離着陸時には、機内の案内に従って本機の電源をお切りください。
- GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。
- GPSについての詳しいご注意は195ページをご覧ください。

測位時間を短くする（GPSアシストデータ）

GPSアシストデータを本機に取り込むことによって、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができます。付属のソフトウェア「PMB」をインストール済みのパソコンにUSBケーブルを使って接続すると、自動的に最新のGPSアシストデータに更新することができます。

GPSアシストデータの有効期限を確認するには

MENUボタン → 1 → [GPS設定] → [GPSアシストデータ確認]を選ぶ。

GPSアシストデータを消去するには

MENUボタン → 1 → [GPS設定] → [GPSアシストデータ削除]を選ぶ。

ご注意

- 更新時は、パソコンがインターネットに接続されている必要があります。
- アシストデータの有効期限が切れている場合、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができません。定期的に更新することをおすすめします。アシストデータの有効期限は約30日以内です。
- [日時設定]をしていない、または設定時刻が大きくずれている場合、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができません。
- 諸般の事情によりGPSアシストデータの提供サービスを終了させていただく場合があります。

パソコンにメモリーカードを挿入して、GPSアシストデータを更新するには

「PMBランチャー」から[GPSサポートツール]を起動し、メモリカードのドライブを選択してGPSアシストデータを更新してください。
そのあとで更新したメモリーカードを本機に挿入してください。

自動で時刻を補正する

本機の起動中にGPSを利用して時刻情報を取得し、正確な時刻を維持できます。電源を切ったタイミングで時刻を補正します。

MENUボタン → 🔧1 → [GPS設定] → [GPS自動時刻補正] → [入]を選ぶ。

ご注意

- [GPS機能]が[切]の場合は無効です。
- あらかじめ、[日時設定]を設定してください。
- 数秒の誤差が生じることがあります。
- 地域によっては、正確に機能しない場合があります。

画像サイズと画質を設定する

静止画の画像サイズ

MENUボタン → 1 → [静止画：画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

[静止画：横縦比]が3：2のとき

SLT-A55V

画像サイズ		用途例
L：16M	4912×3264画素	A3ノビサイズまでの印刷
M：8.4M	3568×2368画素	A4サイズまでの印刷
S：4.0M	2448×1624画素	L/2Lサイズまでの印刷

SLT-A33

画像サイズ		用途例
L：14M	4592×3056画素	A3ノビサイズまでの印刷
M：7.4M	3344×2224画素	A4サイズまでの印刷
S：3.5M	2288×1520画素	L/2Lサイズまでの印刷

[静止画：横縦比]が16：9のとき

SLT-A55V

画像サイズ		用途例
L：14M	4912×2760画素	ハイビジョンテレビでの再生
M：7.1M	3568×2000画素	
S：3.4M	2448×1376画素	

SLT-A33

画像サイズ		用途例
L：12M	4592×2576画素	ハイビジョンテレビでの再生
M：6.3M	3344×1872画素	
S：2.9M	2288×1280画素	

ご注意

- ［画質］でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。画面に画像サイズは表示されません。

スイング撮影の画像サイズ

スイング撮影の画像サイズを設定します。「撮影方向」によって、サイズが異なります（65ページ）。

MENUボタン → 📷 2 → ［パノラマ：画像サイズ］または［3Dパノラマ：画像サイズ］ → 希望のサイズを選ぶ。

パノラマ：画像サイズ

STD（標準）	上下：3872×2160 左右：8192×1856
WIDE（ワイド）	上下：5536×2160 左右：12416×1856

3Dパノラマ：画像サイズ

3D 16:9（16：9）	左右：1920×1080
3D STD（標準）	左右：4912×1080
3D WIDE（ワイド）	左右：7152×1080

動画の画像サイズ

画像サイズは大きいほど高精細になります。

MENUボタン → 1 → [動画：画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

「AVCHD」時

FH (1920×1080)	17 Mbps：ハイビジョンテレビ用に最高画質で撮影

「MP4」時

1080 (1440×1080)	12 Mbps：ハイビジョンテレビ用に高画質で撮影
VGA (VGA) (640×480)	3 Mbps：WEBアップロードに適したサイズで撮影

ご注意

- [VGA]以外を選択した場合は、望遠よりの画像になります(SLT-A33のみ)。

静止画の横縦比

MENUボタン → 1 → [静止画：横縦比] → 希望の比率を選ぶ。

3：2	通常の横縦比率。
16：9	ハイビジョンテレビ比率。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は設定できません。

静止画の画質

MENUボタン → 1 → [静止画：画質] → 希望の設定を選ぶ。

<table>
<tr><td>RAW（RAW）</td><td>ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します）
デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。
• 画像サイズは常に最大サイズで固定され、画面には画像サイズは表示されない。</td></tr>
<tr><td>RAW+J
（RAW+JPEG）</td><td>ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します）＋JPEG
上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。
• JPEG画像の画質は［ファイン］に、画像サイズは［L］に固定される。</td></tr>
<tr><td>FINE（ファイン）</td><td rowspan="2">ファイル形式：JPEG
画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。「STD」は「FINE」に比べて圧縮率が大きくなるためデータ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。</td></tr>
<tr><td>STD
（スタンダード）</td></tr>
</table>

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」時は設定できません。
- 画質を変更した場合の撮影枚数については、28ページをご覧ください。

RAWについて

本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter SR」が必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。

- RAW形式の画像は、DPOF（プリント）指定はできません。
- RAW形式の画像には、[オートHDR]を設定できません。

メモリーカードへの記録方法を設定する

ファイル番号の付けかたを変更する

MENUボタン → ▬1 → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
リセット	以下の場合にファイル番号をリセットし、0001から番号をつける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。 – 保存フォルダーの形式が変更になった場合 – フォルダー内の全画像が削除された場合 – メモリーカードを交換した場合 – メモリーカードをフォーマットした場合

フォルダー名の付けかたを変更する

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。

MENUボタン → ▬1 → [フォルダー形式] → 希望の設定を選ぶ。

標準形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋MSDCFになる。 例：100MSDCF
日付形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋年月日（西暦下1桁月日4桁）になる。 例：10000405（100フォルダー、2010年4月5日）

ご注意

- 動画のフォルダー形式は「フォルダー番号＋ANV01」で固定されます。

新規フォルダーを作成する

メモリーカードの中に、新しいフォルダーを作成します。
既存番号＋1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。静止画用のフォルダーと動画用のフォルダーが同時に作成されます。

MENUボタン → 1 → ［フォルダー新規作成］を選ぶ。

ご注意

- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーを作成する場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成されます。

保存フォルダーを選ぶ

標準形式フォルダーを選択中でフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

MENUボタン → 1 → ［記録フォルダー選択］ → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダー設定中は、記録フォルダーの選択はできません。
- 動画のフォルダーは選べません。

メモリーカードをフォーマットする

フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン → 1 → [フォーマット] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。

管理ファイルを修復する

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、動画を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の動画が再生できなくなります。
そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

MENUボタン → 1 → [管理ファイル修復] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- 充分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行うと、データを破損するおそれがあります。

メモリーカードの残量を確認する

現在撮影できる動画の時間と静止画の枚数を表示します。

MENUボタン → 1 → [メモリーカード残量表示]を選ぶ。

Eye-Fiカードの自動アップロード機能を設定する

市販のEye-Fiカードを使うときに、アップロード機能を使うかどうか設定します。
Eye-Fiカードがカメラに入っているときのみ自動アップロード機能の設定メニューが表示されます。

MENUボタン → 🔧2 → [アップロード設定] → 希望の設定を選ぶ。

通信状態の画面表示

(アイコン)	待機中で、送信画像が無い
(アイコン)	アップロード待機中
(アイコン)	接続中
(アイコン)	アップロード中
(アイコン)	エラー発生

ご注意

- Eye-Fiカードはご使用の前に、無線LANアクセスポイントや転送先を設定してください。詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードはアメリカ、カナダ、日本、EUの一部の国で販売しています（2010年3月現在）。
- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国のみで使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードはワイヤレス LAN機能を持っています。飛行機の中など、使用を禁止されている場所では、Eye-Fiカードを本機に入れないでください。入っている場合は[アップロード設定]を[切]にしてください。アップロード機能が[切]になっていると画面上に OFF が表示されます。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。

- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 画像アップロード中はパワーセーブ機能は働きません。
- （エラー発生）が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- [GPS機能]が[入]の状態で撮影した画像をアップロードすると、意図せずに撮影場所が第3者に知られる場合があります。
  その場合は[GPS機能]を[切]にして撮影してください（134ページ）
  （SLT-A55Vのみ）。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fi を使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

ノイズ軽減処理の設定を変更する

長時間露光時のノイズ軽減処理を停止する

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する（長時間露光）と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先するには［入］を、撮影タイミングを優先するには［切］を選びます。

MENUボタン → 📷3 → ［長秒時ノイズリダクション］ → ［切］を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「連続撮影優先AE」、連続撮影および連続ブラケット撮影、シーンセレクションの［手持ち夜景］、ISO感度が［マルチショットNR］時は、［入］にしていてもノイズリダクションは行われません。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時はノイズ軽減処理［切］の設定はできません。

高感度時のノイズ軽減処理を設定する

高感度に設定して撮影すると、高感度時に目立つノイズを軽減する処理を行います。
画質を優先するには［オート］を、撮影タイミングを優先するには［弱］を選びます。

MENUボタン → 📷3 → ［高感度ノイズリダクション］ → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 連続撮影および連続ブラケット撮影時は、[オート]にしていても[弱]になります。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、シーンセレクション時は[弱]に固定されます。
- RAW画像にはノイズリダクションは行われません。

操作ボタンの設定を変更する

AELボタンの操作方法を変更する

AELボタンを押して固定した測光値を、AELボタンを押している間だけ保持するか([押す間AEL])、もう一度AELボタンを押すまで保持するか([再押しAEL])を設定できます。

MENUボタン → ✿1 → [AELボタン] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター/ファインダー内に ✱ が点灯します。解除し忘れのないようにしてください。
- ここでの「押す間」、「再押し」設定は、マニュアルモードでのマニュアルシフト(74ページ)にも影響します。
- [再押しAEL]に設定したときには、忘れずにもう一度AELボタンを押してロックを解除してください

フォーカスホールドボタンの機能をプレビューボタンに変更する

フォーカスホールドボタンの付いたレンズをお使いの場合、そのボタンの機能をプレビューボタンに変更できます。

MENUボタン → ✿1 → [フォーカスホールドボタン] → [プレビュー]を選ぶ。

ピント拡大機能を有効にする

撮影時に 🗑(削除)ボタンを押して、画像を拡大してピントの確認ができるように設定できます。

MENUボタン → ✿1 → [ピント拡大] → [入]を選ぶ。

本体設定を変更する

電子音の有無を設定する

ピントが合ったときや、セルフタイマー作動時に、電子音を鳴らすか鳴らさないかを切り換えます。

MENUボタン → 🔧2 → [電子音] → 希望の設定を選ぶ。

画面にヘルプガイド文が出ないようにする

本機を操作したときに表示されるヘルプガイドを表示しないようにできます。
すぐに次の操作に進みたいときに便利です。

MENUボタン → 🔧1 → [ヘルプガイド表示] → [切]を選ぶ。

省電力モードになる時間を設定する

自動的に省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定できます。シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影が再開できます。

MENUボタン → 🔧1 → [パワーセーブ] → 希望の時間を選ぶ。

ご注意

- ここでの設定にかかわらず、テレビ接続時またはドライブモードが[リモコン]のときは30分になります。

レンズをつけていないときにシャッターを切れるようにする

本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、レンズを取り付けていない状態でもシャッターを切れるように設定します。

MENUボタン → ✿1 → [レンズなし時のレリーズ] → [許可]を選ぶ。

ご注意

- 天体望遠鏡など、レンズ信号接点を持たないレンズをお使いの場合は、正確な測光が行えません。撮影結果を見て、手動で露出を合わせてください。

動画再生のデモンストレーションを設定する

約1分間操作をしないと、自動的に動画でデモンストレーションが始まるように設定できます。

MENUボタン → 🔧2 → [デモモード] → [入]を選ぶ。

液晶モニター /液晶ファインダーの設定を変更する

液晶モニターの明るさを設定する

本機は明るさセンサー（11ページ）により、周囲の明るさに合わせて、液晶モニターの明るさを自動調整します。
これを手動で変えたり、晴天時の屋外に最適な明るさにできます。

MENUボタン → 🔧1 → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時は、明るさセンサーを手などでおおわないようにしてお使いください。
- [オート]設定時にACアダプター AC-PW20（別売）を使うと、モニターの明るさは常に一番明るい設定になります。
- 室内で[屋外晴天]にすると明るすぎるため、室内での使用時は[オート]か[マニュアル]に設定してください。

ファインダーの明るさを手動で設定する

本機は、被写体の明るさに合わせてファインダーの明るさを自動調整します。
これを手動で変えることもできます。

MENUボタン → 🔧1 → [ファインダー明るさ] → [マニュアル] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時にACアダプター AC-PW20（別売）を使うと、ファインダーの明るさは常に一番明るい設定になります。

撮影直後の画像表示時間を変更する（オートレビュー）

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ✿2 → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [縦記録画像の再生]が[縦向き]になっていても、オートレビュー時は縦方向で表示されません（118ページ）。

液晶モニター /ファインダーの切り換え方法を設定する

液晶モニター表示とファインダー表示の自動切り換えを無効にして、FINDER/LCD切り換えボタンのみでの切り換えに設定します。

MENUボタン → ✿1 → [FINDER/LCD切換設定] → [マニュアル]を選ぶ。

グリッドライン表示を設定する

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示を設定します。動画の撮影可能範囲も表示されます。

MENUボタン → ✿2 → [グリッドライン] → 希望の設定を選ぶ。

本機のバージョンを確認する

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

MENUボタン → 🔧2 → [バージョン表示]を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が ▰▰▰ (残量が3個)以上でないと、アップデートは行えません。充分に充電したバッテリーを使うか、ACアダプター AC-PW20 (別売)の使用をおすすめします。

設定を初期値に戻す

本機の主な設定が初期値に戻ります。

MENUボタン → 🔧2 → [設定値リセット] → [実行]を選ぶ。

リセットされるのは下記の設定項目です。

項目	リセット後の設定値
露出補正（96）	±0.0
撮影情報画面（36）	グラフィック表示
再生画面（117）	1枚再生（撮影情報あり）
ドライブモード（112）	1枚撮影
フラッシュモード（91）	強制発光（内蔵フラッシュの開閉状態により異なる）
オートフォーカスモード（84）	AF-A
フォーカスエリア（85）	ワイド
顔検出（88）	入
スマイルシャッター（89）	切
ISO（101）	AUTO
測光モード（100）	多分割測光
調光補正（98）	±0.0
ホワイトバランス（108）	オート（自動設定）
色温度/カラーフィルター（109）	5500K、カラーフィルター 0
カスタムホワイトバランス値（110）	5500K
DRO/オートHDR（102）	Dレンジオプティマイザー：オート
クリエイティブスタイル（105）	スタンダード
シーンセレクション（60）	ポートレート

撮影メニュー

項目	リセット後の設定値
静止画：画像サイズ（137）	L：16M（SLT-A55V） L：14M（SLT-A33）
静止画：横縦比（139）	3：2
静止画：画質（140）	ファイン
動画：画像サイズ（139）	1920×1080
動画：記録方式（78）	AVCHD
動画：音声記録（78）	入
手ブレ補正（54）	入
パノラマ：画像サイズ（138）	標準
パノラマ：撮影方向（65）	右
3Dパノラマ：画像サイズ（138）	16：9
3Dパノラマ：撮影方向（65）	右
調光モード（99）	ADI調光
AF補助光（93）	オート
色空間（106）	sRGB
長秒時ノイズリダクション（147）	入
高感度ノイズリダクション（147）	オート

カスタムメニュー

項目	リセット後の設定値
アイスタートAF（35）	切
FINDER/LCD切換設定（153）	オート
AELボタン（149）	押す間AEL
ピント拡大（149）	切
フォーカスホールドボタン（149）	フォーカスホールド
赤目軽減発光（93）	切
レンズなし時のレリーズ（151）	禁止
グリッドライン（153）	切

項目	リセット後の設定値
ヒストグラム(97)	切
撮影情報表示(37)	ライブビュー撮影用
オートレビュー (153)	切
オートアドバンス連続撮影(59)	オート
オートアドバンス画像抽出(59)	オート

再生メニュー

項目	リセット後の設定値
スライドショー ー間隔設定(122)	3秒
スライドショー ーリピート(122)	切
プリント指定ー日付プリント(173)	切
音量設定(119)	2
縦記録画像の再生(118)	縦向き

メモリーカードツールメニュー

項目	リセット後の設定値
ファイル番号(142)	連番
フォルダー形式(142)	標準形式

セットアップメニュー

項目	リセット後の設定値
モニター明るさ(152)	オート
ファインダー明るさ(152)	オート
GPS設定 ー GPS機能(134) (SLT-A55Vのみ)	入
GPS設定 ー GPS自動時刻補正(136) (SLT-A55Vのみ)	入
パワーセーブ(150)	1分
HDMI機器制御(132)	入

項目	リセット後の設定値
ヘルプガイド表示（150）	入
アップロード設定（145）	入
USB接続（165）	マスストレージ
電子音（150）	入
デモモード（151）	切

パソコンを使う

本機で撮影した画像をいっそうご活用いただくために、CD-ROM（付属）には以下のソフトウェアが収録されています。

- Sony Image Data Suite
  「Image Data Converter SR」
  「Image Data Lightbox SR」
- 「PMB」（Picture Motion Browser）

ご注意

- 「PMB」は、Macintoshには対応しておりません。

パソコンの推奨環境（Windows）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	Microsoft Windows XP* SP3/Windows Vista SP2/Windows 7
「PMB」使用時	**CPU：**Intel Pentium Ⅲ 800 MHz以上（HD動画再生・編集時はIntel Core Duo 1.66 GHz以上/Intel Core 2 Duo 1.66 GHz以上） **メモリー：**512 MB以上（HD動画再生・編集時は1 GB以上） **インストール時に必要なハードディスク容量：**約500 MB **ディスプレイ：**1024×768ドット以上
「Image Data Converter SR Ver.3」/「Image Data Lightbox SR」使用時	**CPU/メモリー：**Pentium 4以上/1 GB以上 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

* 64bit版は除きます。ディスク作成機能のご使用には、Windows Image Mastering API（IMAPI）Ver.2.0 以上が必要です。

パソコンの推奨環境(Macintosh)

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS(工場出荷時にインストールされていること)	**USB接続**:Mac OS X(v10.3、10.4、10.5、10.6) **「Image Data Converter SR Ver.3」/「Image Data Lightbox SR」**:Mac OS X(v10.4、10.5、10.6(Snow Leopard))
「Image Data Converter SR Ver.3」/「Image Data Lightbox SR」使用時	**CPU**:Power PC G4/G5シリーズ(1.0 GHz以上を推奨)/Intel Core Solo/Core Duo/Core2 Duo以上 **メモリー**:1 GB以上を推奨 **ディスプレイ**:1024×768ドット以上

ご注意

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- Hi-Speed USB(USB2.0準拠)のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送(hi-speed転送)が行えます。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

ソフトウェアを使う

インストールする（Windows）

コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、[コンピュータ]（Windows XPでは[マイコンピュータ]）→ （SONYPMB）→ [Install.exe]の順にダブルクリックする。
- 自動再生画面が表示される場合は、「Install.exeの実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールする。

2 [インストール]をクリックする。

「Sony Image Data Suite」と「PMB」にチェックが入っていることを確認して、画面の表示に従ってインストールする。

- 画面の指示に従ってカメラとパソコンを接続する（165ページ）。
- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動する。
- 使用環境によって、DirectXが引き続きインストールされることがある。

3 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

下記のソフトウェアがインストールされ、デスクトップにショートカットが表示される。

「Image Data Converter SR」
「Image Data Lightbox SR」
「PMB」
「PMBランチャー」
「PMBヘルプ」

ご注意

- 「PMB」をすでにインストールしているパソコンで、付属のCD-ROMのバージョンより小さい番号をご使用の場合は、付属のCD-ROMからもインストールしてください。
- 付属のCD-ROMのバージョンよりも大きい番号をご使用の場合はインストール不要です。本機とパソコンをUSB接続すると、使用できる機能が有効になります。
- お使いのパソコンに、すでにバージョン5.0.00未満の「PMB」がインストールされている場合は、本機に付属のCD-ROMから「PMB」をインストールすると、一部使用できなくなる機能があります。また、あわせてインストールされる「PMBランチャー」から「PMB」や他の様々なソフトウェアを起動できるようになります。「PMBランチャー」の起動には、デスクトップ上の （PMBランチャー）をダブルクリックします。

インストールする（Macintosh）

コンピュータの管理者権限でログオンした状態で行ってください。

1 Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM（付属）をディスクドライブに入れる。

2 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

3 [MAC]フォルダーの中の[IDS_INST.pkg]を任意のフォルダーにコピーする。

4 コピー先のフォルダーの中の[IDS_INST.pkg]をダブルクリックする。

以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

「Image Data Converter SR」を使う

次のことなどができます。

- RAW画像を、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
- RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Image Data Converter SR Ver.3]

「Image Data Converter SR」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/ids-sj/

「Image Data Lightbox SR」を使う

次のことなどができます。

- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定など
- 「Image Data Converter SR」で表示して、画像の調整

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Image Data Lightbox SR]

「Image Data Lightbox SR」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/ids-sj/

「PMB」を使う

次のことなどができます。

- 本機で撮影した画像のパソコンへの取り込み、表示
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧
- 静止画の補正（赤目補正など）、プリント、メール送信、撮影日時の変更
- 撮影した画像の位置情報を地図上に表示（SLT-A55Vのみ）
- 画像に日付を挿入して保存、印刷
- パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスク、またはAVCHDディスク、DVD-Videoディスクを作成（ブルーレイディスク、DVD-Videoディスクの初回作成時、インターネット接続環境が必要です）

ご注意

- 「PMB」は、Macintoshには対応しておりません。
- 初回起動時にお知らせ通信機能の確認画面が表示されます。[実行開始]を選択してください。この機能は、ソフトウェアの更新などのお知らせがある場合に通知を行います。あとで設定し直すこともできます。

詳しい使いかたは「PMBヘルプ」をご覧ください。
デスクトップ上の（PMBヘルプ）をダブルクリック、または[スタート] → [すべてのプログラム] → [PMB] → [PMBヘルプ]

「PMB」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/pmb-sj/

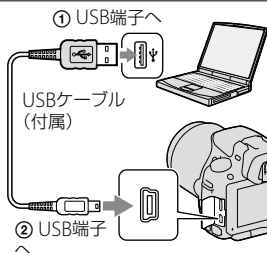
本機とパソコンを接続する

1 **充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター AC-PW20(別売)を使い、本機とコンセントを接続する。**

2 **パソコンの電源を入れ、本機の ▶(再生)ボタンを押す。**

3 **セットアップメニュー 🔧 2の[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認する。**

4 **本機とパソコンを接続する。**

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

画像を取り込んで見る(Windows)

「PMB」を使うと、簡単に画像を取り込めます。
「PMB」の機能について詳しくは、「PMBヘルプ」をご覧ください。

「PMB」を使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ファイル名について

フォルダー	ファイルの種類	ファイル名
DCIMフォルダー	JPEGファイル	DSC0□□□□.JPG
	JPEGファイル(Adobe RGB)	_DSC□□□□.JPG
	RAWファイル	DSC0□□□□.ARW
	RAWファイル(Adobe RGB)	_DSC□□□□.ARW
MP_ROOTフォルダー	MP4ファイル(1440x1080)	MAH0□□□□.MP4
	MP4ファイル(VGA)	MAQ0□□□□.MP4

- □□□□(ファイル番号)は0001 ~ 9999の半角数字
- [静止画:画質]を「RAW+JPEG」で撮影した場合、RAWファイルとJPEGファイル名の数字部分は同じです。

ご注意

- AVCHD動画を取り込むなどの操作は「PMB」を使用してください。
- 動画にGPS位置情報をつけたままパソコンに取り込む場合は、「PMB」を使用してください(SLT-A55Vのみ)。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHD動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHD動画を削除したり、コピーをしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

画像を取り込んで見る(Macintosh)

1 本機とパソコンを接続したら[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン]→[取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする。

2 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする。

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

3 [ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする。

画像が表示される。

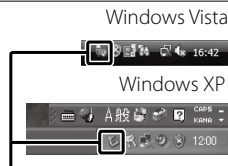
ご注意

- AVCHD動画を取り込むなどの操作は、Macintoshにバンドルされているソフトウェア「iMovie」を使用してください。

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1 ～ 3の手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする。

切断アイコン

2 (USB大容量記憶装置) → [停止]をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリックする。

ご注意

- Macintosh使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。

ディスクの作りかたを選ぶ

お使いの再生機器に合わせて、作りかたを選択してください。
「PMB」を使ったディスクの作りかたについての詳細は「PMBヘルプ」をご覧ください。
動画をパソコンに取り込むには、165ページをご覧ください。

再生機器	作りかた	ディスクの種類
ブルーレイディスク再生機器 （ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）	「PMB」を使ってパソコンに画像を取り込み、ブルーレイディスクを作る。	Blu-ray
AVCHD規格対応再生機器 （ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）	「PMB」を使ってパソコンに画像を取り込み、AVCHDディスクを作る。	AVCHD
	DVDirect Express以外のDVDライター /レコーダーを使ってAVCHDディスクを作る。	
一般的なDVD再生機器 （DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）	「PMB」を使ってパソコンに画像を取り込み、標準画質（STD）のディスクを作る。	STD

ご注意

- ソニー製DVDirect（DVDライター）をお使いの場合、データの転送にはメモリーカードスロットとUSB接続が使えます。
- ソニー製DVDirect（DVDライター）を使うときは、DVDライターのファームウェアが最新版であることをご確認ください。
  詳しくは下記のURLをご覧ください。
  http://www.sony.jp/dvdirect/

ディスクの説明

ブルーレイディスクには、ハイビジョン画質（HD）の動画をDVDディスクに比べ長時間記録できる。	
ハイビジョン画質（HD）の動画をDVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成する。 • ハイビジョン画質のディスクは、ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など、AVCHD規格対応再生機器で再生できる。一般的なDVDプレーヤーでは再生できない。	
ハイビジョン画質（HD）の動画を標準画質（STD）に変換し、DVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成する。	

「PMB」で使えるディスクの種類について

「PMB」では以下の12 cmのディスクを使えます。ブルーレイディスクについては、170ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD＋R / DVD＋R DL	書き換えできない。
DVD-RW / DVD＋RW	書き換えて再利用できる。

- 「プレイステーション 3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

AVCHDディスクを作る

付属のソフトウェア「PMB」を使って、パソコンに取り込んだAVCHD動画をハイビジョン画質（HD）のAVCHDディスクに作成できます。

1 「PMB」上でディスクに書き込むAVCHD動画を選ぶ。

2 （ディスク作成）をクリックして［AVCHD（HD）作成］を選ぶ。

AVCHD（HD）作成画面が表示される。

- 詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

ご注意

- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。
- 静止画、MP4動画はAVCHDディスクに記録できません。
- ディスク作成には時間がかかることがあります。

AVCHDディスクをパソコンで再生するには

「PMB」と同時にインストールされる「Player for AVCHD」を使って再生できます。
起動するには、［スタート］ → ［すべてのプログラム］ → ［PMB］ → ［PMBランチャー］ → ［見る］ → ［Player for AVCHD］の順にクリックします。操作方法は「Player for AVCHD」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- パソコンの環境によっては、動画がなめらかに再生できないことがあります。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスクを作成できます。
お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。
ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。追加記録はできません。
ブルーレイディスクを作成するには「PMB」のインストール画面で［BDアドオンソフトウェア］をインストールしてください。
インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。
詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

標準（STD）画質のディスクを作る

付属のソフトウェア「PMB」を使って、パソコンに取り込んだAVCHD動画を選び、標準（STD）画質のDVDディスクを作成できます。

1 「PMB」上で、ディスクに書き込むAVCHD動画を選ぶ。

2 （ディスク作成）をクリックして［DVD-Video（STD）作成］を選ぶ。

AVCHD（STD）作成画面が表示される。

- 詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

ご注意

- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。
- MP4動画はディスクに記録できません。
- AVCHD動画を標準画質（STD）に変換するため、ディスク作成に時間がかかります。
- DVD-Videoディスクを初めて作成するときは、インターネット接続環境が必要です。

プリント指定する

撮影した静止画を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかを指定しておくことができます。
指定方法は、下記の手順をご覧ください。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

画像を選んでプリント指定する/解除する

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [DPOF指定] → [画像選択]を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

3 コントロールボタンの中央を押して枚数を選ぶ。

- プリント指定を解除するときは、枚数を「0」にする。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[実行]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- 枚数指定は9枚までです。

日付を入れる

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所(画面内/画面外、サイズなど)は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [日付プリント] → [入]を選ぶ。

ご注意

- プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ
レンズ交換式デジタルカメラ

使用レンズ　Aマウントレンズ

[撮像部]

撮像素子　**SLT-A55V**
23.5×15.6 mm（APS-Cサイズ）、CMOSイメージセンサー

SLT-A33
23.4×15.6 mm（APS-Cサイズ）、CMOSイメージセンサー

総画素数　**SLT-A55V**
約16 700 000画素

SLT-A33
約14 600 000画素

カメラ有効画素数
SLT-A55V
約16 200 000画素

SLT-A33
約14 200 000画素

[手ブレ補正]

形式　イメージセンサーシフト方式

効果　シャッタースピード約2.5段～ 4段（撮影条件・レンズにより異なる）

[アンチダスト]

システム　帯電防止コートとイメージセンサーシフト駆動の併用

[オートフォーカス]

形式　TTL位相差検出方式、15点（3点クロスタイプ）

検出輝度範囲
EV －1 ～ EV 18（ISO 100相当）

AF補助光　約1 m ～ 5 m

[ライブビュー]

形式　メインイメージセンサー取込式（透過ミラー型）

撮像素子　"Exmor" CMOSセンサー

視野率　100%

[液晶ファインダー]

形式　電子式ビューファインダー（カラー）

画面サイズ　1.2cm(0.46型)

総ドット数　1440 000ドット相当

有効表示画面サイズ
1.1cm(0.43型)

有効表示ドット数
1 152 000ドット相当

視野率　100%

倍率　1.10倍（50 mmレンズ、無限遠、視度－1 m^{-1}時）

アイポイント
最終光学面から約19 mm、接眼枠から約18 mm（視度－1 m^{-1}時）

視度調整　－4.0 ～＋4.0 m^{-1}（ディオプター）

[液晶モニター]

形式　7.5 cm（3.0型）TFT駆動

ドット数　921 600（640×3（RGB）×480）ドット

[露出制御]

測光素子　"Exmor" CMOSセンサー

測光方式　1200分割ライブビュー分析測光

測光範囲　EV −2 ～＋17、分割、中央重点、スポット測光とも（ISO100相当、F1.4レンズ使用）

ISO感度（推奨露光指数）
　オート、ISO100 ～ 12800

露出補正　±2.0EV（1/3段ステップ）

[シャッター]

形式　電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード範囲
　1/4000 ～ 30秒、バルブ（1/3段ステップ）

フラッシュ同調速度
　1/160秒

[内蔵フラッシュ]

ガイドナンバー
　10（ISO100・m）

充電時間　約4秒

照射角　18 mmレンズをカバー（レンズ表示の焦点距離）

調光補正　±2.0EV（1/3段ステップ）

[記録方式]

静止画記録方式
　JPEG（DCF Ver.2.0、Exif Ver.2.3、MPF Baseline）準拠、DPOF対応

動画記録方式（AVCHD方式）
　AVCHD規格 Ver1.0準拠
　映像：MPEG-4 AVC/H.264
　音声：Dolby Digital 2ch
　ドルビーデジタルステレオクリエーター搭載
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式（MP4方式）
　映像：MPEG-4 AVC/H.264
　音声：MPEG-4 AAC-LC 2ch

[記録メディア]

"メモリースティック PRO デュオ"、SDカード

[入出力端子]

USB端子　miniB

HDMI端子　HDMIタイプCミニ端子

マイク端子　∅3.5 mmステレオミニジャック

REMOTE端子

[電源]

バッテリー　リチャージャブルバッテリーパックNP-FW50

［その他］

Exif Print　対応

PRINT Image Matching III
対応

外形寸法　約124.4×92×84.7 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）

本体質量　**SLT-A55V**
約500 g（バッテリー、"メモリースティック PRO デュオ"を含む）
約441 g（本体のみ）
SLT-A33
約492 g（バッテリー、"メモリースティック PRO デュオ"を含む）
約433 g（本体のみ）

動作温度　0 ～ 40℃

USB通信　Hi-Speed USB（USB2.0準拠）

バッテリーチャージャーBC-VW1

定格入力　AC100 V – 240 V、50 Hz/60 Hz、4.2 W

定格出力　DC 8.4 V、0.28 A

動作温度　0℃～ 40℃

保存温度　－20℃～＋60℃

最大外形寸法
約63×95×32 mm（幅×高さ×奥行き）

本体質量　約85 g

リチャージャブルバッテリーパックNP-FW50

使用電池　リチウムイオン蓄電池

最大電圧　DC 8.4 V

公称電圧　DC 7.2V

容量

公称容量 7.7 Wh（1 080 mAh）

定格（最小）容量
7.3 Wh（1 020 mAh）

最大外形寸法
約31.8×18.5×45 mm（幅×高さ×奥行き）

本体質量　約57 g

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

焦点距離について

本機での撮影画角は、35 mmフィルムカメラの画角よりも狭くなります。お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍すれば、35 mmフィルムカメラとほぼ同じ画角で撮影できる焦点距離に相当する値を求めることができます。
（例：焦点距離50 mmのレンズを付けると、35 mmフィルムカメラで約75 mmに相当する画像が得られます。）

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"（DCF）に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

商標について

- α はソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick"、"メモリースティック"、MEMORY STICK™、"Memory Stick PRO"、"メモリースティック PRO"、MEMORY STICK PRO、"Memory Stick Duo"、"メモリースティックデュオ"、MEMORY STICK DUO、"Memory Stick PRO Duo"、"メモリースティックPRO デュオ"、MEMORY STICK PRO DUO、"Memory Stick PRO-HG Duo"、"メモリースティックPRO-HGデュオ"、MEMORY STICK PRO-HG DUO、"メモリースティックマイクロ"、"MagicGate"、"マジックゲート"および MAGICGATE はソニー株式会社の商標です。
- "InfoLITHIUM(インフォリチウム)"は、ソニー株式会社の商標です。
- "ブラビア プレミアムフォト"は、ソニー株式会社の商標です。
- AVCHDおよびAVCHDロゴは、ソニー株式会社とパナソニック株式会社の商標です。
- Blu-ray DiscおよびBlu-ray Discロゴは商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- Microsoft、Windows、DirectX、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- PowerPCは、米国における米国IBM Corporationの登録商標です。
- Intel、Intel Core、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- SDXC、SDHCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- Eye-Fiは、Eye-Fi, Incの商標です。
- MultiMediaCardは、MultiMediaCard Associationの商標です。
- 「プレイステーション3」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商品です。また、「プレイステーション」は同社の登録商標または商標です。
- Adobe は Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

その他

困ったときは

困ったときは、次の項目をチェックし、本機を点検してください。それでも調子が悪いときは『α』専用サポートサイトまたはソニーの相談窓口に電話でお問い合わせください(裏表紙)。

❶以下の項目をチェックする。

▼

❷バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

▼

❸設定リセットをする(155ページ)。

▼

❹『α』専用サポートサイトで確認する。
http://www.sony.co.jp/DSLR/contact/

▼

❺ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる(裏表紙)。

カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/
登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/contact/

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください(16ページ)。
- バッテリーはNP-FW50のみ使用できます。NP-FW50かどうか確認してください

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です(192ページ)。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(14ページ)。
- バッテリーの寿命です(19ページ)。新しいバッテリーと交換してください。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください(16ページ)。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(14ページ)。
- バッテリーの寿命です(19ページ)。新しいバッテリーと交換してください。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定(パワーセーブ)になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます(150ページ)。

バッテリー充電中、CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FW50のみ使用できます。NP-FW50かどうか確認してください。
- 長時間使用していないバッテリーを充電すると、CHARGEランプが点滅することがあります。
- 点滅パターンは、速い点滅(約0.15秒)と遅い点滅(約1.5秒)の2種類があります。速い点滅のときは、バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付けてください。

再び速い点滅をしたときは、バッテリーの異常が考えられます。
遅い点滅のときは、充電に適した温度外で充電しているため、充電を一時停止した待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電を再開し、CHARGEランプは点灯になります。
バッテリーの充電は周囲温度が10℃～ 30℃の環境で行うことをおすすめします。

撮影する

ファインダーモード時、電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定（パワーセーブ）になり、ほぼ電源オフに近い状態になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます（150ページ）。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調整してください（25ページ）。

ファインダーに画像が映らない。

- [FINDER/LCD切換設定]が[マニュアル]になっています。FINDER/LCD切り換えボタンを押してください（35ページ）。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください（28ページ）。
- 内蔵フラッシュ充電中は撮影できません（91ページ）。
- ピントが合わないとシャッターは切れません。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください（22ページ）。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、[レンズなし時のレリーズ]を[許可]にして撮影してください（151ページ）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（82ページ）を撮ろうとしています。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください（83、86ページ）。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています（147ページ）。故障ではありません。

- RAWモードで撮影しています（140ページ）。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です（102ページ）。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。[1枚撮影]にしてください（112ページ）。
- 撮影モードが「連続撮影優先AE」になっています（66ページ）。
- 撮影モードが「AUTOアドバンス」になっていて、[AUTOアドバンス画像抽出]が[切]になっています。

ピント（フォーカス）が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。フォーカスモードスイッチを「AF」（オートフォーカス）にしてください（81ページ）。
- レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にしてください。
- 光量が不足している。

アイスタートAFが働かない。

- [アイスタートAF]を[入]にしてください（35ページ）。
- シャッターボタンを半押ししてください。

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュが自動発光になっています。必ず発光させたいときは、強制発光にしてください（91ページ）。

フラッシュの充電時間が長い。

- 短時間に連続してフラッシュを発光させています。連続してフラッシュを発光すると、本機が熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。

フラッシュ撮影した画像が全体的に暗い。

- フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、ISO感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します（93ページ）。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください(24ページ)。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。
  [エリア設定]を設定し直してください(25ページ)。

シャッターボタンを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる(フレア)。
光のにじみが現れる(ゴースト)。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入っています。レンズフード(別売)を取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください(93ページ)。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内(93ページ)で撮影してください。

液晶モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません(7ページ)。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(55、91ページ)。

液晶モニター /ファインダー内の測光インジケータ◀▶が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、本機の測光範囲を超えています。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー/ファイルの名前を変更したためです(165ページ)。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するには「PMB」を使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(167ページ)。

画像を削除する/編集する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(127ページ)。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(127ページ)。

DPOF指定マークが付かない。

- RAW画像にはDPOF指定マークを付けられません。

GPS(SLT-A55Vのみ)

GPSの電波を受信できない。

- [GPS機能]を[入]にしてください(134ページ)。
- 障害物の影響でGPS衛星の電波が受信できないことがあります。
- 位置情報を確実に測位するには、屋外の空の開けた場所に移動してから、本機の電源を入れ直してください。

位置情報の誤差が大きい。

- 周囲の建物などで電波が反射したり、受信した電波が弱いなど、状況により最大で数百メートルの誤差を生じます。
- 位置情報を取得できないときに、最後に測位した位置情報を代用している場合があるので、長距離を移動したときに今の位置とは異なる情報が記録される場合があります。撮影時に画面に表示されるアイコンで測位状況を確認してください(134ページ)。

GPSアシストデータを取り込んでいるのに測位に時間がかかる。

- ［日時設定］をしていない、または設定時刻が大きくずれています。正しく日にちを設定してください(24ページ)。
- アシストデータの有効期限が切れています。最新のGPSアシストデータに更新してください(135ページ)。
- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ屋外の空の開けた場所でご使用ください。

位置の情報が記録されていない。

- 動画にGPS位置情報をつけたままパソコンに取り込む場合は「PMB」を使用してください。

パソコン

最新サポート情報は、『α』専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンを使う」を確認してください(159ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください(14ページ)、またはACアダプター(別売)を使用してください。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使ってください(165ページ)。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- ［USB接続］を［マスストレージ］にしてください(165ページ)。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください(165ページ)。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(165ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください(165ページ)。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(144ページ)。

画像を再生できない。

- 「PMB」をお使いの場合は、「PMBヘルプ」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときに「PMB」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(165ページ)。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(16ページ)。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(128ページ)。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています(16ページ)。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、CD-ROMに付属の「Image Data Converter SR」でJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります（106ページ）。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- 「PMB」を使ってプリントすると日付挿入ができます（164ページ）。
- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありませんが、画像には日付情報が記録されています。お使いのプリンターやソフトウェアがExif情報を認識できれば日付を入れてプリントできます。対応の有無は、各メーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください（192ページ）。

電源を入れると、「エリア/日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください（24、192ページ）。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです（140ページ）。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出しました。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください（11、16ページ）。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- ACアダプター（別売）使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買いあげ店またはソニーの相談窓口にお問い合せください。

画面右下の手ブレインジケータが、5つとも点滅する。

- 手ブレ補正機能が作動していません。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。電源スイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

対応バッテリーをお使いください

- 指定以外のバッテリーを使用している。

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定する。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電する（24、192ページ）。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、ACアダプター（別売）を使用する。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した。［実行］を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する。

このメモリーカードは正常に記録・再生できない可能性があります

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

レンズの装着を確認してください 非対応レンズの場合は、カスタムメニューでレリーズを許可にできます

- レンズが正しく装着されていない。またはレンズが取り付けられていない。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、[レンズなし時のレリーズ]を[許可]にする。

静止画が記録されていません 動画が記録されていません

- 画像の記録されていないメモリーカードで再生しようとしている。

プロテクトされています

- プロテクトされている画像を削除しようとしている。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。
  本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[!]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がった。撮影を終了してください。

この動画記録方式では 撮影できません

- [動画：記録方式]を[MP4]にしてください。

FULL

- 本機で日付を管理できる枚数を越えている。

ERROR

- 本機の管理ファイルへの記録ができない。「PMB」で、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合はソニーの相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルエラー 再起動します

- 管理ファイルに何らかの異常が発生している。[管理ファイル修復]を行ってください(144ページ)。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができない。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません 回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

指定が変更されていません

- 画像を指定せずに、DPOFを実行しようとした。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"困ったときは"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。

モバイルサイト

モバイルサイトでは、サポート情報やイベント情報などを掲載しています。
http://www.sony.co.jp/mobile/support/dslr

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管。
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

保管方法

使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。DT 18-55 mm F3.5-5.6 SAMレンズキットをご購入された場合は、レンズリヤキャップALC-R55をお買い求めください。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ～ 40℃です。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切や電池の有無に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。ソニーの相談窓口にお問合せください（裏表紙）。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター（別売）を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

メモリーカードについて

メモリーカードおよびカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。故障の原因になります。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

撮影・再生に際してのご注意

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。
  フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化（フラグメンテーション）して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、[フォーマット]（144ページ）を行ってください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。
- ファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください（192ページ）。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、充分に発光できない場合があります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。メモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、1080i方式*[1]や720p方式*[2]のHD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。
MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。この方式により、8cmDVDディスク、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリ、メモリーカードなどにデジタルビデオカメラの高画質なハイビジョン映像信号を記録することができます。

本機での記録・再生について

本機ではAVCHD規格に基づき、以下の仕様でHD（ハイビジョン）記録ができます。

映像*[3]：**1080 60i対応機**
MPEG-4 AVC/H.264　1920×1080/60i
1080 50i対応機
MPEG-4 AVC/H.264　1920×1080/50i
音声：ドルビーデジタル2ch
記録メディア：メモリーカード

*[1] 1080i 有効走査線数1080本、インターレース方式のハイビジョン規格
*[2] 720p 有効走査線数720本、プログレッシブ方式のハイビジョン規格
*[3] 本機は、上記以外のAVCHD規格で記録されたデータの再生には対応していません。

GPSについて（SLT-A55Vのみ）

GPS衛星は、高度20,000kmの6つの軌道上に各4個、24個以上が設置されています。
GPS衛星からの電波を受信し、衛星の軌道情報（アルマナックデータ）と電波の伝播時間のデータなどから自分の位置を計算します。
位置を計算することを測位と呼び、衛星は3機以上受信できれば、緯度、経度がわかります。

- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ上空の開けた場所でご使用ください。
- GPS衛星からの電波が届かない以下のような場所や状況では、位置情報を記録できないことがあります。
  - トンネルの中・屋内やビルの陰
  - 高層ビルの間・建物の間の狭い道路
  - 地下・密集した樹木の間・高架の下・高圧電線など、近くに磁気を発生するものがある場合
  - 1.5GHz帯の携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものがある場合

誤差について

- 本体電源を入れた直後に移動すると、移動しなかった場合にくらべて、測位までの時間が長くなることがあります。
- 本機では、測位できなかった場合、最後に測位できた位置情報を画像へ書き込みます。
- GPS衛星自体による誤差
  本機は、3個以上のGPS衛星からの電波を受信すると自動的に現在地を測位します。GPS衛星自体による誤差は、約30m程度ですが、測位する周辺の環境によってはさらに大きな誤差を生じることがあります。このような場合は、実際に居た場所と地図上での位置が異なることがあります。また、GPS衛星は米国国防総省により管理されており、意図的に精度が変更されることがあります。
- 測位時間による誤差
  本機では測位中に位置情報を約15秒ごとに取得しています。位置情報の取得と画像への書き込みに若干の時間差があるため、実際に画像を撮影した位置と地図上の位置が異なる場合があります。

飛行機内規制について

飛行機の離着陸時には、機内の案内に従って本体電源をお切りください。

その他の規制について

GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。

測地系について

本機では、測地系として、「WGS-84」を採用しています。

3D撮影について

撮影のご注意

- 以下の場合は、3D撮影に適していません。
  - 動きのある被写体
  - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  - 空、砂浜、芝生などの似たような模様が続く被写体
- 以下の場合、3D撮影が中断されることがあります。
  - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  - ブレ過ぎた場合
- 一定時間内に3D撮影画角に満たなかった場合、足りない部分は黒画で記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目が滑らかに記録できない場合があります。
- 暗いシーンでは画像がブレる場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、うまく撮影できないことがあります。
- 3D撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角の明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なると、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 撮影方向は、左右方向のみです。
- 3D撮影の手順については65ページをご覧ください。

3D画像の再生について

3D撮影した画像を本機の液晶モニター、または3D非対応テレビで再生した場合は、通常の静止画で表示されます。

3D画像のファイルについて

- 3D画像はJPEGファイルとMPOファイルを合成して1枚の画像を作成します。パソコン上でどちらかのファイルを削除した場合、うまく再生できなくなることがあります。
- 3D画像鑑賞の手順については、122ページ、131ページをご覧ください。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池やアイピースカバーなどの付属品や、メモリーカードなどを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

下記の注意事項を守らないと、**火災、大けがや死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。

長時間、同じ持ち方で使用しない

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合
- 血行の悪いかた、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

⚠注意 火災 感電　下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

コード類は正しく配置する

指示

電源コードやパソコン接続ケーブルは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

禁止

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

禁止

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

プラグをコンセントから抜く

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

禁止

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

禁止

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

禁止

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

指示

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

直射日光の当たる場所に放置しない

禁止

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災など**を避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。

指示

お願い

リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion
リチウムイオン電池

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については
一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアである
「C Library」、「Expat」、「zlib」、「dtoa」、「pcre」、「libjpeg」が搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、
内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license1.pdf」をご覧ください。「C Library」、「Expat」、「zlib」、「dtoa」、「pcre」、「libjpeg」の記載（英文）が収録されています。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。
(ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、
内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license2.pdf」をご覧ください。「GPL」、「LGPL」の記載（英文）が収録されています。
PDFをご覧になるにはAdobe Readerが必要です。パソコンにインストールされていない場合には
下記のホームページからダウンロードすることができます。
http://www.adobe.com/